

金沢大学 イノベーションレポート

Vol.2
2009-9

金沢大学イノベーション創成センター
Center for Innovation Kanazawa University



CONTENS

01 巻頭のことば

「カルヴァンからのメッセージ!」

金沢大学イノベーション創成センター長・教授 吉國 信雄

02 産学官連携の声

「大学に対する社会の期待と、大学の機能・役割についての雑感」

文部科学省産学官連携コーディネーター 小川 健一郎

04 アナウンス

04 産学官連携推進本部及びイノベーション創成センターについて

12 文部科学省産学官連携戦略展開事業
(戦略展開プログラム)

13 イノベーション創成センター特任助教紹介

14 文部科学省産学官連携コーディネーター及び金沢大学産学官連携コーディネーター紹介

15 博士研究員紹介

16 客員教員紹介

21 産学官地域アドバイザー紹介

24 共同研究等について

24 平成20年度共同研究一覧

31 平成21年度シーズ発掘試験採択一覧

33 知的財産・特許について

33 発明届出・特許出願状況

34 平成20年度 公開特許出願一覧

36 研究成果有体物の譲与・受入状況

37 平成21年度VBL使用プロジェクト一覧

38 制度・支援

38 (学外)産学コーディネーターの紹介

39 (学内)産学コーディネーターの紹介

40 広報

51 イノベーション創成センター刊行物の紹介

52 金沢大学の産学官連携の展開

—最近の新聞報道より—

55 ご案内

55 科学技術相談について

55 技術アドバイスサービスについて

57 共同研究について

60 金沢大学イノベーション創成センター協会入会のご案内

金沢大学産学官連携関係者一覧



カルヴァンからの メッセージ！



イノベーション創成センター長

吉国 信雄

今年6月に京都で開催された第8回産学官連携推進会議で耳にした、「我が国は科学技術大国だが科学技術立国ではない。」という言葉が今も強く印象に残っている。科学技術関連の施策などは活発に行なわれているものの戦略となるべきものが欠けているとの指摘であろうか。同じようなことは別の場でも耳にしたことがある。具体的には、「知財立国といわれて久しいが、例えば、先端医療分野での我が国の知的財産制度は空洞化しており、知財戦略の観点から日本は外されつつあるのでは。」というものである。それを聞き、「成る程、成る程！」とつい頷いてしまうのが悲しい。

かつて小生が勤務したWIPO (World Intellectual Property Organization) があるジュネーブは宗教改革者ジャン・カルヴァン (Jean Calvin, 1509-1564) がいたことで有名な町であるが、今年はカルヴァンの生誕五百年。ルターに端を発した宗教改革はフランス語圏ではカルヴァンを中心に発展したが、スイスの時計産業を今のような興隆に導いたのは、カルヴァンを受け入れたジュネーブの町の人たちであるといっても過言ではない。カルヴァンを信奉する人たちはユグノーといわれ、時のフランス王家から迫害を受け (ユグノー戦争、1562-1598)、カルヴァンの町ジュネーブに逃げ込んだが、ユグノーの多くは絹織物、染色技術、時計製造技術などを身に付けた手工業者で、現代風に言えば、アントレプレナーの人たちであった。当時のジュネーブには高度の技術を持った金細工師たちがおり、彼らの有していた高度の技術がユグノーたちの時計製造技術と結びついて発展を遂げたといわれている。フランスは当時の時計産業の中心地であったが、ユグノーを追い出したことによってその地位を失うことになった。ユグノーのフランス脱出は、聖バーソロミューの虐殺による第一波 (1572年～) と、ユグノー戦争を終結させたナント勅令 (1598年) がルイ14世により廃止されたことによる第二派 (1685年～) とがあったとされているが、そのたびにスイスの時計産業は飛躍的に発達している。

社会体制がスイス時計産業におけるイノベーションを加速したともいえよう。なお、イギリスにも多くのユグノーたちが渡っており、その後のイギリス産業勃興の陰の立役者ともいわれている。

ところで、我々が住む社会はユグノーを受け入れる社会だろうか？それとも、ユグノーを追い出してしまう社会なのだろうか？

本センターは、昨年度農商工連携産業創出に挑戦を始め、本年度からは、更に医商工連携産業や環境関連新規産業創出を視野に入れての活動を開始しているところであるが、新規連携産業を考える時、普段意識しない制度問題と直面することが多いのではと感じている。イノベーションは新技術のみで引き起こせるものではなく、社会的枠組み、価値観を大きく変えることも必要とされていることを実感しているところであるが、我々の社会は根本的変革を受け入れるほどに寛容な社会なのだろうか。

さて、変革を阻むもので一番厄介なものがある。いわゆる常識といわれるもので、知らず知らずのうちに人の心や考えを束縛していることがある。自分自身、能登の歴史に関してこれまで当たり前とっていたことが、根本から覆されたことがあった。

網野善彦著「日本の歴史をよみなおす」(ちくま学芸文庫)によれば、江戸時代までの奥能登の実態は、港町、都市が多数形成され、日本海交易の先端を行く廻船商人が多く活動し、日本有数の富裕な地であったとされている。廃棄されるはずの資料であった“紙背文書”“襖下張り文書”を分析してのことのようであるが、もしそれが事実であれば、我々が普段思い描く奥能登とは別世界のようにも思えるのである。その頃にはすでに今言うところの農商工連携が実践されていたともいえよう。歴史家ではないので、事の真偽についてこれ以上入るつもりはないが、当時の能登でできたことがもし今の能登でできないとすればそれはなにかと考えるのもいいのかもしれない。想像以上に、我々は常識で病んでいるといえなくもないのである。

常識がしばしば人の精神を支配するものであるとすれば、我々の心の中には常に、カソリックとカルヴァン率いるユグノーたちとの戦いがあるともいえよう。ユグノーを追い出すのか、あるいは、ユグノーを受け入れるのか、改めて自問自答しているところである。

大学に対する社会の期待と、 大学の機能・役割についての雑感

～自らの経験をベースに、コーディネーターの立場で考える～



文部科学省産学官連携コーディネーター

小川 健一郎

神様の思し召しにより、浦島太郎の気分昨年夏に故郷金沢に帰ってきてから約1年が経ちました。社会人としての40年以上に及ぶ関東でのさまざまな思い出、心残りを振り払い、自分なりの老後設計し全うするつもりで帰郷しましたが、いろいろな方々のご配慮で、この7月から母校金沢大学で仕事をすることとなりました。しかしながら、産学官連携コーディネーターという大きな役目に直面して、乏しい経験・知見しかない自分に、何ができるか、何をなすべきかと毎日が模索の連続です。一口に産学官連携活動といっても、新産業創出や地域活性化、外部研究資金の導入等、いろいろ側面があります。ただ、昨年来アメリカを震源地とする経済不況と、これを契機として盛り上がりつつある「グリーンニューディール」「低炭素革命」等に代表される国際的な広がりを持つ世界的な盛り上がりは、社会生活のほとんどをエネルギー・環境関連分野に費やしてきた私にとって、取り組むべき仕事を考える上での発想の原点になっていることは否めません。

産業革命以降、人類が築き上げてきた現代文明社会は、いわゆる地球温暖化はもちろん、エネルギー・資源、食料・水の枯渇、生物多様化の危機的減少等、人類がこれまで経験したことのない全地球的課題に直面しています。ざりとて、いまさら原始農耕社会に戻れるはずもなく、我々は叡智を集めてこれらの多様な課題に対処しつつ、先達が築き上げてきた便利で快適な文明社会の機能・恩恵を維持していく必要があります。そして、この大きな課題解決に向けて「エネルギー・環境問題」への対処を産業構造の中核に据え、石油を中心とした化石エネルギーに多くを依存する社会構造・ライフスタイルの変革に取り組もうというのが、わが国を含めた先進国の大方針だといえましょう。もちろん、発展途上にある国々にとって、当面は化石エネルギー利用により、先進国の辿ってきた経済発展プロセスを踏襲することとなり、このことが国際的な議論を複雑化していることはご承知のとおりです。

ところで、最近のわが国での「低炭素革命」に向けた施策の代表的なものとして、太陽光発電開発・普及促進、電気自動車とこれに向けた高性能蓄電池開発等があります。またこれらには、ハード技術の普及と同時並行的に、エネルギー需給システムの質的かつ劇的な転換（省エネルギーハウス、スマートグリッド等）を伴うものと想定されています。このような検討は、オバマ大統領の指導の下、アメリカの産業構造の大きな変化「Change」として、ハード、ソフト両面の開発が、より強力に進められています。

これらは、これまで化石エネルギーをベースとする大規模電源と精緻な送配電ネットワークで構成される電力需給システムの変質のみならず、エネルギー消費者のエネルギーに対する考え方を根本的に変化させるものといえます。つまり、従来は主として国家と大企業が供給責任を負っていたエネルギー供給について、利用サイドも供給責任を持つ「全員参加」型で課題に対処する社会を志向するものです。また同時に、これらに対する投資への動機は、貨幣中心の経済価値のみではなく、新しい指標（例えば二酸化炭素排出量、省エネルギー量）で評価・判断されなければなりません。

このような観点から産学官連携活動を考えますと、それぞれのセクターの役割が明確になってくるような気がします。

現下の経済大不況下において、経営の健全化と雇用の確保に日夜努力する産業界のみに、人類史的な大変動、意識の転換への対応を期待することは適切とは思えません。一方頭脳集団としての大学に、従来の例に倣って、社会ニーズ、産業ニーズに応じていけばよい・そもそも、これまでは大学は、社

会ニーズへの認識が希薄であったとされていますが・・・というわけにもいきません。長期的な視点での思索、従来思考に囚われない発想からの提言等は、さまざまな頭脳の集積たる大学にこそ求められるのであり、これこそがイノベーションというものではないでしょうか。大きな社会構造・ライフスタイルの転換と、その水面下に潜む新しいニーズを感知し、抽出すること、そして、このニーズに対応する新しい研究テーマを創出し、社会に訴えかけること、もちろん、これらを担う人材の育成がその中心であることは述べる必要もないことです。これらこそが、産学官連携推進という国家的活動において、大学に求められている最大の機能であろうと考えます。

蛇足ながら、わが国は一億人以上の国民が生活するために不可欠な資源（食料・エネルギー等ほとんどの資源）をほとんど産出しない国際的にも稀な国家です。従って、先輩たちが営々と築き上げてきた安全・安心で便利な社会を今後とも維持していくためには、外貨を獲得し必要な資源を確保することが絶対に不可欠であります。また、勤勉で優秀な国民は、誇りと自信を持って送り出す製品、取り組める仕事を求めています。

この経済不況に際し、輸出依存型から内需中心の経済に転換すべきとの議論があります。経済に関してまったくの素人の私ですが、全世界が求める生産財・耐久消費財の製造・輸出と、これを担うものづくり産業は、全世界から期待され、また国民も待ち望んでいるのではないのでしょうか。

そして、この目的に最もよく合致する産業のひとつとして「エネルギー・環境」関連産業を挙げたいわけです。わが国はこの分野に関して、世界最先端の技術を築き上げましたが、今後も更なる技術開発により、世界のトップランナーとして世界をリードしなければなりません。先達が築き上げてきたものづくり産業の発展・強化はもとより、革新的な技術・製品を創出する新産業の創出に最適なポジションにわが国は位置しているはずですが。

ものづくり産業ひとつをとっても、大学は、既存の技術・思考法を越えた発想で、社会に潜在しているニーズを発掘し、これに対応する「何か」を提示することが求められているのです。この「何か」を生み出す土壌は、自然科学、社会科学を問いません。新しい発想の技術・物流・販売法等、従来にはない「何か」を生み出す知恵を絞り出せればと思うこのごろです。

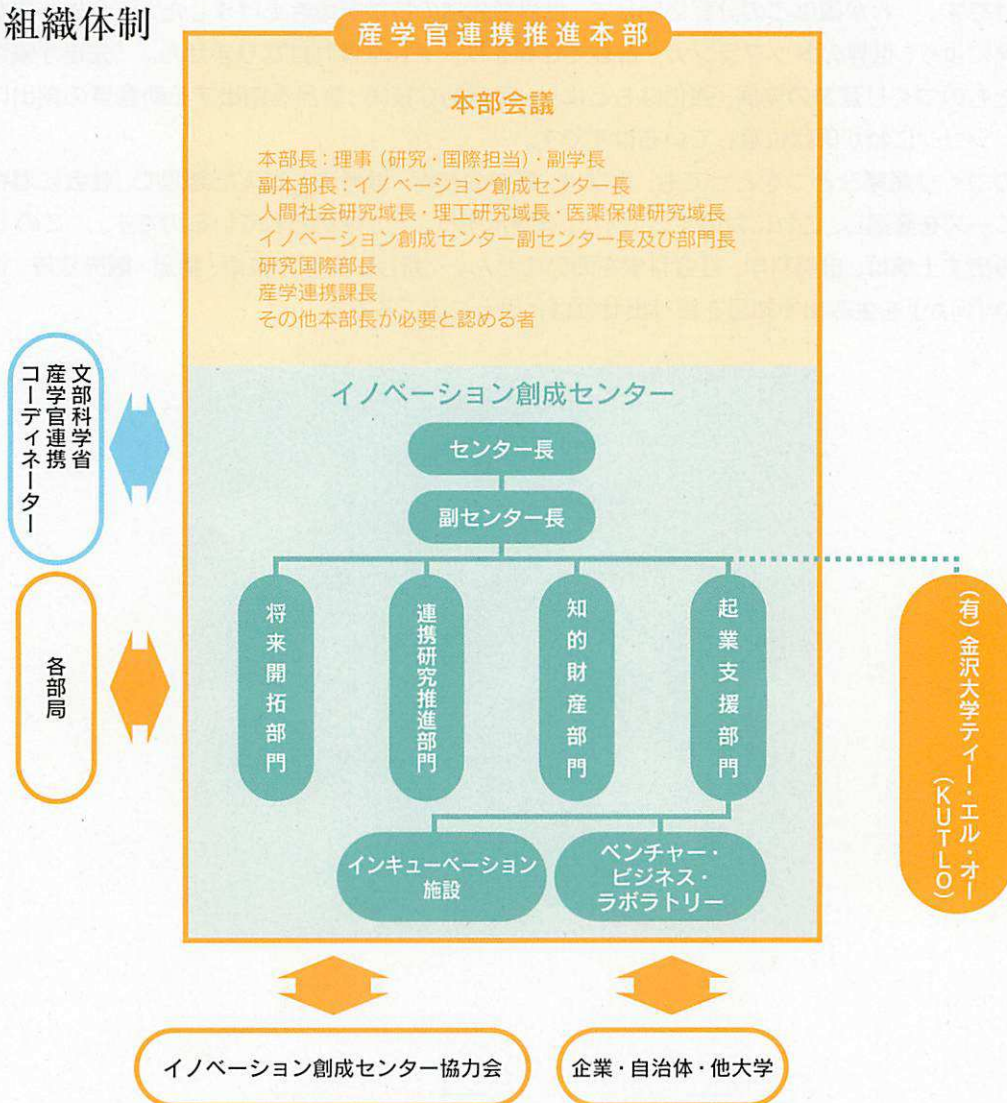
産学官連携推進本部及び イノベーション創成センターについて

産学官連携推進本部

金沢大学は、産学官連携・知的財産活動を本学の重要な使命の一つとしてとらえ、知的資源を活用した産学官連携による社会貢献及び研究の活性化を戦略的に推進することを目的として、副学長（研究・国際担当）を本部長とする産学官連携推進本部を平成20年4月1日から設置しました。

産学官連携推進本部は、産学官連携及び知的財産活動を推進するための戦略を立案し、関連組織との連携・調整を行います。

組織体制



イノベーション創成センター

イノベーション創成センターは、金沢大学の産学官連携・知的財産活動の中核の組織として、平成20年4月1日から設置されました。イノベーション創成センターは、平成19年度までの共同研究センター、知的財産本部、インキュベーション施設及びベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを統合し、新たに4部門（将来開拓部門、連携研究推進部門、知的財産部門、起業支援部門）となっています。イノベーションの創成が果たす社会的貢献の意義を重要視し、より一層の産学官連携・知的財産活動による研究成果の社会還元及び教育研究の活性化を推進することを目的としています。

当センターは、イノベーション創出のプラン・体制を構築する将来開拓部門、イノベーション創出を加速する研究活動を推進する連携研究推進部門、イノベーション成長の戦略を固める知的財産部門、そしてイノベーション成長を飛躍させるための起業化を支援する起業支援部門の4部門から成っており、プロデュース機能である「イノベーションの創出」とコーディネート機能である「イノベーションの成長」が有機的に発揮される組織となっています。また、当センターは文部科学省の産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）として「金沢大学戦略展開プログラム」を推進し、各部門を横断的にサポートしております。

イノベーション創成センターは、産学官連携推進の学内外の窓口として、将来開拓部門、連携研究推進部門、知的財産部門及び起業支援部門の4部門で構成されており、各部門の機能は、次のとおりです。

(1) 将来開拓部門

産学官連携に関係する社会情報の分析、将来構想に関する研究、産学官連携の分野における人材育成、産学官連携・知的財産活動への助言・評価を担当します。

(2) 連携研究推進部門

産学官連携の企画・推進及び支援、共同研究及び受託研究の推進、技術相談、産学官連携に関する研究及び教育を担当します。

(3) 知的財産部門

知的財産戦略の情報収集及び企画立案、知的財産に関する研究及び教育、知的財産ネットワークの充実及び管理、知的財産の発掘及び管理並びに研究成果物の管理を担当します。

(4) 起業支援部門

ベンチャー起業化及び事業化に対する支援、大学院学生及び若手研究者の創造性を養成する教育プログラムの実施、ベンチャービジネスの萌芽となるべき独創的な研究開発プロジェクトの推進を担当します。



部門長

大友 信秀

人間社会研究域 法学系 教授

平成20年4月より大学と地域の将来開拓を担う将来開拓部門を任せられることになりましたが、具体的な作業計画は、部門を動かしながら拡大させていく予定です。将来開拓部門は、センターの基盤となる業務をすべてやれるだけやるというところに位置づけられています。これまで理系、とりわけ工学系に偏りがちであった産学官連携を文系にまで幅を広げ、産については地元の資源をくまなく汲み取る作業にとりかかります。「将来開拓部門から来ました!!」という声をお届けします。研究室や事務所のドアを大きく開けて待っててください。

Department of Future Planning

将来開拓部門

産学官連携に関係する社会情報の分析、将来構想に関する研究、産学官連携の分野における人材育成、産学官連携・知的財産活動への助言・評価を担当します。

県外からのアクセス

<東京方面から>

- 飛行機利用
羽田-小松 1日11往復/1時間
※小松空港-金沢駅連絡バスがあります。
- JR利用
東京-金沢 上越新幹線、はくたか
(ほくほく線経由)/約4時間10分
上野-金沢 寝台特急北陸
夜行急行能登(運行日程あり)
/8時間

■ 高速バス利用

東京-金沢 1日10往復/7時間30分
※横浜発、八王子発あり

<大阪・京都方面から>

- JR利用
大阪-京都-金沢 特急サンダーバード 雷鳥
/約2時間30分

■ 高速バス利用

大阪-金沢 1日5往復/約5時間
京都-金沢 1日4往復/4時間

<名古屋方面から>

- JR利用
名古屋-金沢 特急しらすぎ/3時間
名古屋-米原-金沢 ひかり・特急しらすぎ
/2時間28分
- 高速バス利用
名古屋-金沢 1日10往復/4時間

県内からのアクセス

<金沢駅から>

- 北陸鉄道バス利用
金沢駅東口3番乗り場発 金沢大学行き93・94・97
34~37分

金沢大学イノベーション創成センター

〒920-1192 石川県金沢市角間町

Tel. 076-264-6111

Fax. 076-234-4019

innov@adm.kanazawa-u.ac.jp

www.innov.kanazawa-u.ac.jp

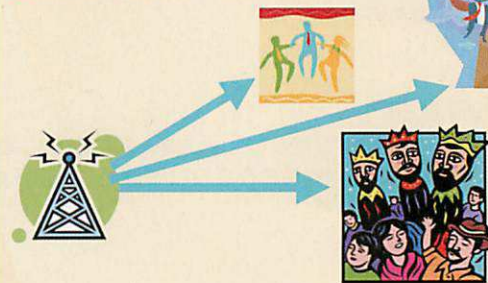
将来開拓部門は、センター他部門
(連携研究推進部門、知的財産部門、起業支援部門)への
橋渡し役です。

将来に向け、大学発・地域発の事業活動を発掘・育成

科学技術にとどまらず、事業化可能な資源を学内外から発掘し、育成します。

他部門への連絡を行うセンターの窓口になります。

- 1 権利取得可能なものは知的財産部門へ
- 2 共同研究で発展させるものは連携研究推進部門へ
- 3 事業化が可能なものは起業支援部門へ



将来開拓部門の業務内容

- 1 学内資源の把握・発掘
 1. 学内研究室を訪問し、研究者の得意領域を把握
 2. 専門領域・関心課題のデータベースを整備
- 2 地域資源の把握・発掘
 1. 学外の企業、地域団体を訪問し、活動を把握
 2. 得意分野・苦手分野の情報整理
- 3 学内・地域資源の試験的運用・事業化
(パイロット・プロジェクトの運用)
 1. 能登野菜のブランド展開
 2. 加賀百万石の歴史を生かした観光プログラム・社会科教育プログラム
 3. 大学発音楽イベントによる文化資源活用策の提案

将来開拓部門を窓口とした
情報提供を広く受け付けます。

部門長

渡辺 良成

教授



私は2005年に(旧)共同研究センターの教員に着任し、2008年、連携研究推進部門長を拝命しました。専門は生化学、分子細胞生物学です。大学およびバイオベンチャーでの研究と、製薬会社創薬研究部門での研究統括の経験を生かし、産学双方の立場・視点を理解し対話を基点に産学官連携の推進に努めます。本部門は、前センターの中核業務を引き継ぎつつも、企業での研究開発成功体験を持つ専属のコーディネータと経験豊富なスタッフとチームを組んで新しい体制の中、変革をしております。皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

Department of Joint Research

連携研究推進部門

産学官連携の企画・推進及び支援、共同研究及び受託研究の推進、技術相談、産学官連携に関する研究及び教育を担当します。

県外からのアクセス

<東京方面から>

■ 飛行機利用

羽田-小松 1日11往復/1時間

※小松空港-金沢駅連絡バスがあります。

■ JR利用

東京-金沢 上越新幹線(はくたか

(ほくほく線経由)/約4時間10分

上野-金沢 寝台特急北陸

夜行急行能登(運行日程あり)

/8時間

■ 高速バス利用

東京-金沢 1日10往復/7時間30分

※横浜発、八王子発あり

<大阪・京都方面から>

■ JR利用

大阪-京都-金沢 特急サンダーバード 雷鳥

/約2時間30分

■ 高速バス利用

大阪-金沢 1日5往復/約5時間

京都-金沢 1日4往復/4時間

<名古屋方面から>

■ JR利用

名古屋-金沢 特急しらさぎ/3時間

名古屋-米原-金沢 ひかり・特急しらさぎ

/2時間28分

■ 高速バス利用

名古屋-金沢 1日10往復/4時間

県内からのアクセス

<金沢駅から>

■ 北陸鉄道バス利用

金沢駅東口3番乗り場発 金沢大学行き93・94・97

34~37分

金沢大学イノベーション創成センター

〒920-1192 石川県金沢市角間町

Tel. 076-264-6111

Fax. 076-234-4019

innov@adm.kanazawa-u.ac.jp

www.innov.kanazawa-u.ac.jp

金沢大学は、

産学官が共通の課題について連携することで、より卓越した研究成果を生み出します。

本部門の業務内容例

- 1 民間企業・機関等との共同研究、受託研究のコーディネーション・マッチング活動による推進
- 2 総合大学の特性を生かし研究開発に関わる多分野の技術相談、技術アドバイスに適した教員の紹介
- 3 競争的研究資金・民間資金を用いた公募産学官共同研究プロジェクト等の情報提供と申請書作成支援活動
- 4 ニュースレター、ホームページ、地域の産学官関連イベント等による共同研究成果、シーズ等の広報
- 5 教員による企業・研究所訪問、企業による学内での説明会開催など双方向コミュニケーションの場形成

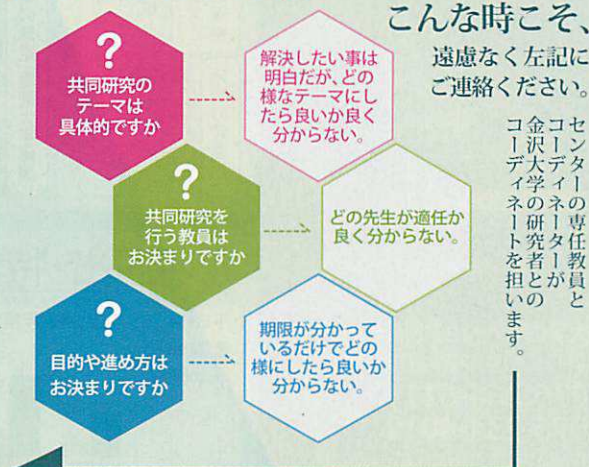
共同研究制度について

共同研究とは、企業等の研究者と本学の教員とが共通の研究課題について対等の立場で共同して研究を行う制度です。

共同研究可能テーマの探し方

- ◆ 金沢大学イノベーション創成センターHPの「金沢大学教員総覧」より『研究分野別検索』・『キーワード検索』をしてみましょう。
- ◆ 同HPの「共同研究実施状況」より『キーワード検索』や、『年度別一覧』で、これまでの共同研究実施例を見ることができます。

共同研究のすすめ方





部門長
分 部 博
 准教授

知的財産部門を担当させて頂く分部和申します。大学の使命である社会貢献を担うイノベーション創成センターの中で、知的財産部門は、大学の知財戦略の企画・立案、知財の発掘・活用を行う部門です。大学知財の本来の姿は、ロイヤリティ収入を得るのではなく、大学の研究成果が社会で最大限活用されるための手段となるべきと思っております。このため、私は大学の敷居をなくし、企業と大学間の関係を密にして、大学知財における本来の姿の実現に邁進したいと思っております。

Department of Intellectual Property

知的財産部門

知的財産戦略の情報収集及び企画立案、知的財産に関する研究及び教育、知的財産ネットワークの充実及び管理、知的財産の発掘及び管理並びに研究成果物の管理を担当します。

県外からのアクセス

<東京方面から>

- 飛行機利用
 羽田-小松 1日11往復/1時間
※小松空港-金沢駅連絡バスがあります。
- JR利用
 東京-金沢 上越新幹線、はくたか (ほくほく線経由) / 約4時間10分
 上野-金沢 環台特急北陸 夜行急行能登 (運行日程あり) / 8時間

- 高速バス利用
 東京-金沢 1日10往復/7時間30分
※横浜発、八王子発あり

<大阪・京都方面から>

- JR利用
 大阪-京都-金沢 特急サンダーバード 雷鳥 / 約2時間30分
- 高速バス利用
 大阪-金沢 1日5往復/約5時間
 京都-金沢 1日4往復/4時間

<名古屋方面から>

- JR利用
 名古屋-金沢 特急しらさぎ / 3時間
 名古屋-米原-金沢・ひかり・特急しらさぎ / 2時間28分
- 高速バス利用
 名古屋-金沢 1日10往復/4時間

県内からのアクセス

- <金沢駅から>
- 北陸鉄道バス利用
 金沢駅東口3番乗り場発 金沢大学行き93・94・97 34~37分

金沢大学イノベーション創成センター
 〒920-1192 石川県金沢市角間町
 Tel. 076-264-6111
 Fax. 076-234-4019
 innov@adm.kanazawa-u.ac.jp
 www.innov.kanazawa-u.ac.jp

「知の創出、保護、活用、研究への還元」の
「知的創造サイクル」の一翼を担う、
 これが**大学の知的財産権**です。

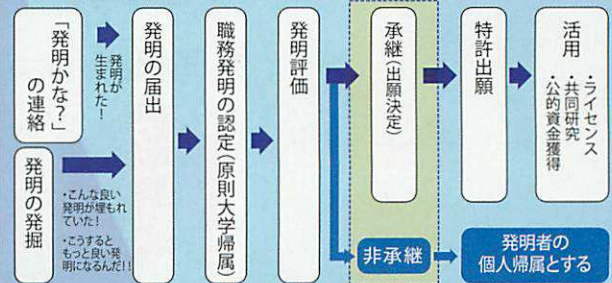
大学の成果により社会貢献を果すために

大学の知的財産権は、ロイヤリティ収入を得るのではなく、大学の成果が社会で最大限活用されるための手段として活用されます。

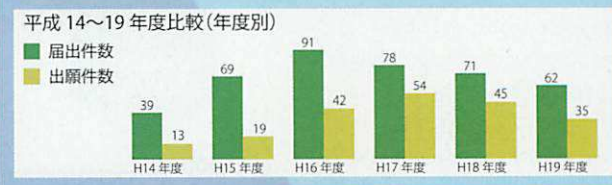
知的財産権の扱い

- 権利の帰属は？
 適切な保護、活用を図るため、知的財産権は原則大学帰属としています。
- 発明管理はどうするの？
 ・職務発明規程に基づき、職務発明の認定を行い、出願するときは、発明者から権利を大学に譲渡して頂きます。
 ・研究成果を適切に保護するため、論文発表前に出願するように務めて頂きます。
- 活用はどうするの？
 知的財産権が社会で有効活用され社会貢献できると判断されるときは、技術移転による活用を図ります。
- 発明者へのインセンティブは？
 発明の促進、研究意欲の向上を図るため、出願が登録された時、ライセンスや譲渡により収入があった時、発明者に報奨金が支払われます。
- ベンチャーへの配慮は？
 発明者が大学の知的財産権を活用して起業する場合、知的財産権の使用に優遇措置を行います。

発明の発生から活用まで



発明届出・特許出願件数



部門長

瀧本 昭

(イノベーション創成センター副センター長)
理工研究域工学系 教授



起業支援部門では、VBLとインキュベーション施設の管理運営の一元化と、自然科学研究科・人間社会環境研究科そして医学系研究科の大学共有スペースとして配備されたエクスプローララボの活性化とともに、本センターの将来開拓・連携研究推進・知的財産の各部門との協力体制のもとでさらに本学の研究成果の社会還元を推進してまいりますので、より一層のご理解ご協力とご支援のほどお願いします。

Department of Entrepreneur Promotion

起業支援部門

ベンチャー起業化及び事業化に対する支援、大学院及び若手研究者の創造性を養成する教育プログラムの実施、ベンチャービジネスの萌芽となるべき独創的な研究開発プロジェクトの推進を担当します。

県外からのアクセス

<東京方面から>

■ 飛行機利用
羽田-小松 1日11往復/1時間
※小松空港-金沢駅連絡バスがあります。

■ JR利用
東京-金沢 上越新幹線、ほくたか
(ほくほく線経由)/約4時間10分
上野-金沢 寝台特急北陸
夜行急行能登(運行日程あり)
/8時間

■ 高速バス利用
東京-金沢 1日10往復/7時間30分
※横浜発、八王子発あり

<大阪・京都方面から>

■ JR利用
大阪-京都-金沢 特急サンダーバード 雷鳥
/約2時間30分

■ 高速バス利用
大阪-金沢 1日5往復/約5時間
京都-金沢 1日4往復/4時間

<名古屋方面から>

■ JR利用
名古屋-金沢 特急しらさぎ/3時間
名古屋-米原-金沢 ひかり・特急しらさぎ
/2時間28分

■ 高速バス利用
名古屋-金沢 1日10往復/4時間

県内からのアクセス

<金沢駅から>

■ 北陸鉄道バス利用
金沢駅東口3番乗り場発 金沢大学行き93・94・97
34~37分

金沢大学イノベーション創成センター
〒920-1192 石川県金沢市角間町

Tel. 076-264-6111

Fax. 076-234-4019

innov@adm.kanazawa-u.ac.jp

www.innov.kanazawa-u.ac.jp

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー

Tel. 076-234-6842

Fax. 076-234-6844

kvbl@nst.kanazawa-u.ac.jp

サイエンスプッシュ型のイノベーションの創成と 起業家精神の醸成

大学発ベンチャービジネスの支援

コーディネーター、外部専門家の協力のもと金沢大学の理工学技術・医薬保健学技術(農学)+人間社会学技術を結集したベンチャービジネスへの支援

- ◆ 大学院生、若手研究者起業ベンチャー
- ◆ 教員起業ベンチャー
- ◆ 企業と大学連携ベンチャーなど



イノベーションの創出

近い将来、起業化が見込まれる教員プロジェクト研究の募集と選考、研究員の採用、研究費補助、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (VBL) 施設・設備の使用など、また、大学院生による起業化が期待される研究テーマの募集選考と研究費補助など、イノベーション創出の芽を育成し、起業化されたベンチャーへのインキュベーション施設の利活用とマネジメント支援を行います。

1 生体機能システム: 医療・バイオ関連と生体機能解析・介助に関する研究開発

2 環境保全技術: 水や土壌、自然環境の汚染の解析と微生物による汚染浄化、地震などの災害による環境破壊の解明と予防処置、及び複雑系の計算機シミュレーション

イノベーションの流れ



起業家のための教育体制

学生への起業家精神の醸成のために、ベンチャービジネスに関わる講義・演習、ビジネスプランコンテスト、さらに講演会・講習会、セミナーなどの実施、人材育成と自立型・継続的な地域発展への貢献のための国内外・地域自治体のコーディネーター・イノベーション創成センター協力会企業として本学産学官連携に関わる教職員や金沢大学TLOなどによる大学院生を対象としたMOT(技術経営)教育や講演会などを実施。

起業支援部門は、次の①ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (VBL) と②インキュベーション施設の管理・運営を行っております。

① ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー



ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー施設は、起業家を目指す学生の教育を目的とした学内共同利用研究教育施設として、平成 16 年 4 月に設立され、同年 6 月より本格運用されております。

人間・環境システムの解析・設計技術の研究開発をテーマに、ベンチャー化を目指す研究プロジェクトを募集し、研究・教育を支援しています。学生を対象とした研究指導やセミナーを通してのベンチャーマインドの高揚、大学で行われている研究の起業化へ向けての具体的なアドバイスを (有) 金沢大学ティ・エル・オー (KUTLO) と連携して行っております。

施設としては、3～5階に研究室、相談室、セミナー室を設け、随時プロジェクトを募集しております (1～2階は工学部の先端材料科学ラボラトリーです)。3階に「相談室」、5階に「院生研究室」と、打ち合わせやセミナーに使用できる部屋もあります。



研究室



相談室



院生研究室

従来からの博士研究員数名に加えて、平成 21 年度から客員教授として瀬領 浩一先生ならびに日本ビジネスサポート協議会の代表取締役の志岐弘之先生を迎え、セミナー、コンテストなどを強化し、より学生の教育に重点をおいています。

平成 20 年度からイノベーション創成センターの起業支援部門となったことにより、VBL で教育・支援を受けた学生がインキュベーション施設で起業し、自立できるようイノベーション創成センター協力会ならびに KUTLO と連携し、地域発展への貢献を目指しています。

② インキュベーション 施設



(左) インキュベーション施設
(右) イノベーション創成センター

インキュベーション施設は、大学におけるインキュベーション機能の強化を目的に、学内共同利用施設として、平成14年に設置されました。金沢大学の研究成果や人的資源を活用して、ベンチャー企業を起こそうとする方、あるいは起こされた企業に対し実用化研究の場を提供し、支援を行います。平成15年4月より本格稼働しており、現在プロジェクト開発室には、ベンチャー企業4社が活動しております。

施設1Fには、各種イベントや講義に利用可能な、セミナー室と会議室も完備され、随時利用可能です。また、展示・交流スペースは、パネル展示、各種刊行物などによりセンターの事業紹介や研究紹介を行っており、セミナー終了後の交流の場や、打合せスペースとしても利用可能ですので、是非ご利用ください。



セミナー室：60名収容



会議室：20名収容



展示・交流スペース

利用申込

プロジェクト開発室

空きがある場合、随時募集。(ただし、全室使用している場合は、使用責任者へ継続確認後(3年を限度))、年度末に募集通知いたします。所定の申込書により申請可能。)

詳しい、仕様や使用料等については事務室まで、お問合せください。

セミナー室・会議室

1) 空き状況の確認と仮予約

利用申込は、先着順受付となっておりますので、空き状況の確認をイノベーション創成センター事務室へお電話またはE-Mailにてお問合せください。

(事務室 TEL:076-264-6111 E-Mail:innov@adm.kanazawa-u.ac.jp)

2) 所定の利用申込書を提出し、予約が確定します。(利用申込書は、事務室にございます。)

— 金沢大学戦略展開プログラム —

金沢大学の行う戦略展開プログラム

「特色ある優れた産学官連携活動の推進」とは

- 「事業化」「地域」「人材育成」がキーワード
- 地域ニーズシーズの発掘から、具現化、事業化への道筋づくりのお手伝い

金沢大学では、平成20年度から平成25年度まで、文部科学省の産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）に取り組んでいます。「事業化」「地域」「人材育成」の3点を特色として打ち出し、地域ニーズシーズの発掘から、具現化、事業化への道筋づくりのお手伝いに取り組んでいきます。

また、その提案・実施成果を、海外を視野に入れて全国へ発信展開していきます。

- ・ ビジネスクリエイト道場
- ・ 知財マイスター派遣事業
- ・ プロデュース人材の養成
- ・ 全国及び海外への発信
- ・ 提案テーマデータベースの作成など

地域イノベーション創出のための3つのステップ

創造

具現化

事業化
(商業化)

今後の注目点

「地域イノベーション創出」のための出口を強化する取り組み

ビジネスクリエイト道場



平成16年度から平成17年度に開催した「ビジネスクリエイト工房」を発展させ、テーマ別に地域の企業人、学内外の研究者、自治体関係者を対象にした事業創造セミナーを行います。今年度は農商工連携を中心テーマとし、来年度以降は、医商工連携など、様々なテーマについて行う予定です。

提案テーマデータベース



幅広い異なる分野の連携のための研究シーズはもとより、地域の様々なニーズを蓄積・整理し、系統的なマッチングや事業プロデュースを行うための仕組みを構築します。

また、その他には、プロデュース人材の育成、知財マイスター派遣事業、企業キャラバン、などの事業にも取り組みます。



文部科学省産学官連携戦略展開事業報告書 金沢大学産学官連携マガジン「櫛 (TASUKI)」

この「櫛-TASUKI-」は金沢大学イノベーション創成センターが平成20年度から5ヵ年事業として取り組んでいる文部科学省「産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）」の一環として、また報告書として作成されました。

本プログラムに関わった方々の想いを次年度に、また地域の方々に、そして地域イノベーションの創出に繋げていくための櫛（たすき）として誕生しました。

特任助教紹介



ひらこ こうへい
平子 紘平

特任助教・戦略支援マネージャー

平成 20 年 9 月より、イノベーション戦略支援マネージャー・特任助教として、イノベーション創成センターの事業に携わっています。「事業化」「地域」「人材育成」をキーワードとした『産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）』を主に担当しております。

戦略展開プログラムでは、シーズ・ニーズの発掘からアイデアの創出・具現化・事業化への道筋づくりのお手伝いを行い、地域の問題解決を通じて「地域イノベーションの創出」を実現することを目的としています。

平成 20 年度は、本センターの目的でもある「地域イノベーション創出」に向け、以下の 2 つのプロジェクトに特に注力いたしました。

一つ目は、農商工連携による新しいビジネスの事業化支援ワークショップ「ビジネスクリエイト道場」の企画・運営。二つ目は、幅広い異なる分野の連携を目的とした、研究シーズ・地域ニーズの整理・蓄積及び、各地の地域連携事業の俯瞰のための仕組み「提案テーマデータベース（愛称：いもづる）」の企画です。

平成 21 年度は、農商工連携だけでなく、医商工連携、環境などの分野に範囲を広げて、戦略展開プログラムの各事業を推進しています。

また、前年度に引き続き、産学官連携に対する「敷居が高い」というイメージを少しでも払拭し、よりよい産学官ネットワーク構築のため、地域企業の方々、公的機関の方々、文系理系・学内外を問わず様々な研究者の方々など、様々な方のご意見をお伺いしながら、活動を行って行きたいと考えております。よろしくお願ひします。

文部科学省産学官連携コーディネーター及び 金沢大学産学官連携コーディネーター紹介



おがわ けんいちろう
小川 健一郎

文部科学省産学官連携コーディネーター



ながえ ひでお
長江 英夫

金沢大学産学官連携コーディネーター

去る7月1日に文部科学省産学官連携コーディネーターとして母校に着任しました。生まれ育った金沢を離れてから40年以上も経ち、学校の所在地はもちろん、街の様子もずいぶん変わってしまい、未だに浦島太郎の気分が抜け切れておりません。

卒業後は、機械メーカー、政府の特殊法人に籍を置き、特に石油危機以降、化石エネルギーの効率的利用、新エネルギー・省エネルギー技術開発とその普及促進に携わってきました。また、東南アジア諸国へのエネルギー・環境技術協力に取り組む中で、気候変動など全地球的環境問題に向けたわが国の役割、技術の重要性を強く感じました。

昨今、わが国の産業活性化・新事業創成が叫ばれ、特に「低炭素革命」の旗印の下、エネルギー・環境関連産業の国際競争力強化、新事業の創成が強く求められています。また直面する難問の解決には、理工学系技術のみならず、社会システム、産業構造、ライフスタイルに至る幅広い視点からの取り組みが不可欠であります。わが国は、産学官の叡智を傾けることで、その成功モデルを全世界に発信できると信じております。

このような難問解決には、多様な頭脳の集団である大学に求められる役割はきわめて大きいと思います。私のこれまでの経験が少しでも大学の活動にお役に立つなら幸いです。皆様のご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

「何でも屋」として産学官の橋渡し

4年前、文部科学省派遣の「広域担当」産学官連携コーディネーターとして北陸地区に配置され、金沢大学からオフィス1室を戴きました。担当エリアは福井、石川、富山でした。それらの県には、文部科学省派遣のコーディネーターが配置されていない大学も多く、例えば、富山医科薬科大学、石川県立大学、金沢医科大学などいわゆる「未配置大学」も回りました。その後、文部科学省の広域担当制度の縮小に伴い、金沢大学の産学官連携コーディネーターとなり、現在に至っています。

文部科学省派遣のコーディネーターになる前は、民間企業で36年間にわたって医薬品の研究・開発を手掛けてきました。医薬品部門が小さかった事もあり、専門としていた癌研究だけに止まらず、新規MRI癌診断剤の発明、薬理、毒性、有機合成、分析、外国企業との共同開発、それが成功した後の医薬品製造プラントの建設、品質管理部門の構築、医薬品製造GMP組織の構築、米国FDA当局による査察への対応、商業生産、流通、知財管理などなど、実に多岐にわたる仕事を担当しました。御蔭さまで、世界中に売れる新薬を世に出す事が出来ましたが、それを支えてくれたのは、大学で学んだ専門知識だけでなく、航空部在籍中に修得した流体力学や機械工学の知識と、何よりも、未知な世界に飛び込んで行く、パイロットとして培った「勇気」でした。また、卓球の国際審判員としての経験や人脈も役立ちました。それらは、「何でも屋」的な今の仕事にも役立っています。

金沢大学では、石川県内の各種繊維企業や種々電子機器製造企業と大学の教員達との共同研究を支援したり、製薬企業、医療機器・介護企業、建設企業の技術相談などを担当しています。

当センターでは企業単独では実施できないような、例えば、大学保有の高価な測定機器を使用するような共同研究が成立するよう支援しています。また、先生方の最先端の研究成果を地域社会に還元すべく努力しています。いつでも気楽に声を掛けて下さい。

博士研究員紹介



あべ さとる
阿部 覚
博士研究員

平成 21 年 1 月から、イノベーション創成センターにおいて戦略支援室スタッフとして活動に携わっています。関西大学経済学部を卒業後、地元スーパーマーケット鮮魚部門で販売・調理・売場経営を担当。その間、社会問題になっている食品偽装等に疑問をいただき、愛媛大学農学部にて農水産物流通等について学びました。主に農山漁村をフィールドに、農水産物の流通や消費に関し、地産地消による学校給食や食育活動（ぎょしょく教育）等に携わり実践活動を行いました。

愛媛県松山市から石川県に来て半年余りが経ちました。その間、県内各地域にお伺いさせていただきました。その中で感じたことは、地域の皆様がとても温かく出迎え、受け入れて下さったことです。そこから出会った皆様とのつながりを大切に、人と人、人と資源、そして資金が有機的に連携していくことが如何に重要であるかを実感しています。

そこで、石川県の良き文化や伝統を守りつつ、未来のために新しいシステム等を取り入れ全国に発信するべく、地域の皆様と協力し活動していきたいと考えております。地域での新しい試みや取組み、資源に関する情報等がありましたら、お寄せいただければと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。



あざはら ひろあき
畔原 宏明
博士研究員

「愚者は経験から学び、賢者は歴史から学ぶ」との格言があります。鉄血宰相ビスマルクの言葉とのことですが、これはこのまま現代にも通用するのでしょうか。公教育が行き届き、通信や移動手段等を含む技術全般が格段に進歩した現代社会にあつては、人は経験からも歴史からも貪欲に学びつつ、更に新しい発想を心がけていかなければ文明として立ち行かなくなるような気がしてなりません。

さて、私は大学院を修了した後、研究独法に約 3 年、その後は国立大の附置研究所に約 5 年在職し、ナノテクに関する研究に従事してきました。研究独法では法人化の直後であり、また附置研では在職中に大学法人化、教育基本法の改正等もあり、図らずも色々なことが目まぐるしく変化していく現場を経験したことになります。特に附置研では異分野の研究者や産業界との接点も多く、また一方で大学院教員も兼任したことから、研究と教育はどうあるべきか、ひいては大学はどうあるべきかなどということを考えてきました。

その後、研究と教育に関しては昨年度で一応の区切りをつけることになり、社会における大学のあるべき姿に対して、今後、自分はどう貢献できるかと考えていたところ、縁あって、本学で産学官連携フェローの役を拝命することになりました。前職での自身の経験を役に立てるのはもちろんですが、先人の経験、またアカデミアを含む社会の歴史にも賢く学びながら、大学が今にまして社会と調和しながら進化し続けられるよう、微力を尽くす所存です。

客員教員紹介

平成21年度 客員教員一覧

任期：平成21年4月1日～平成22年3月31日

飯島 泰裕

青山学院大学 社会情報学部
大学院社会情報学研究科 教授

奥野 信男

丸文通商株式会社 営業支援グループ 担当部長

志岐 弘之

有限会社日本ビジネスサポート協議会 代表取締役社長

斯波 久二雄

株式会社BM総研 吹田事務所長

瀬領 浩一

多喜 義彦

システムインテグレーション株式会社 代表取締役社長

中井 純

株式会社アットワイヤレス 代表取締役社長

平野 武嗣

有限会社金沢大学ティ・エル・オー 代表取締役社長

(50音順・敬称略)



いいじま やすひろ 飯島 泰裕

青山学院大学 社会情報学部
大学院社会情報学研究科 教授

専門分野

情報社会論、情報科学、情報政策、ベンチャービジネス論

大学院修了後、(株)富士通、富士通研究所(株)で人工知能、マルチメディアの研究開発を約10年行い、次世代エキスパートシステムの開発や、世界初のマルチメディアパソコンの研究開発、また、それらのアプリケーション拡大のための研究開発を進めてきました。その後、金沢大学経済学部で情報通信技術(ICT)をもとにしたビジネスや社会システムの研究を約15年してまいりました。この間に学生に情報関連ビジネスの重要さと面白さを伝えるとともに、金沢市、石川県、総務省、経済産業省など行政の皆さんや、産業界や住民の皆さんと共同して北陸の情報化を進めてまいりました。

母校である青山学院大学に社会情報学部および大学院を新設することになり、2008年4月より青山学院大学の所属となりました。ただ、まだ北陸との縁は深く、玉川こども図書館や金沢まちづくり市民研究機構などで、月に2回程度は金沢へお伺いしております。ICTで、住み易い活気ある街づくりや社会づくり、そして画期的なビジネスの開発などを、知恵や経験、人脈を通じてお手伝いしたいと思っております。是非、お気軽にご相談ください。

客員教員紹介



おくの のぶお
奥野 信男

丸文通商株式会社
営業支援グループ 担当部長

専門分野

科学機器、レーザ、医用機器、産学官共同研究支援
(企業交渉・予算申請書作製など)

丸文通商(株)では北陸3県を基盤に、40年余り近く科学機器、試験計測機器およびレーザ機器類などの販売に携わってきましたが、過去、歪ゲージ式ストレンメーターの普及初期の啓蒙を兼ねた活動、また、ダイオキシン分析施設および装置類のご提案活動が、他に先んじた活動として自負出来る経験です。

7年前から産学官共同研究のお手伝いをしてまいりましたが、情報の収集と提供活動につとめるとともに、各種研究会にも参画し共同研究の一端を担わせて頂きました。この行動の原資は、一重に過去の営業活動で蓄積した数多くのお客様の人脈であり、営業経験で身に付いた先行活動はさらに多方面の方々との情報交換へと発展しております。その結果が共同研究のためのニーズとシーズの結び付きに繋がって行き、JST シーズ発掘試験、経済産業省・地域新生コンソーシアム事業の採択、戦略的基盤技術高度化支援事業(通称サポイン)の採択などの成果として表れたものと考えております。

現在他地域ではありますが、文部科学省都市エリア事業の支援もお受けしており、広域的な連携活動の支援を含め、研究者のよき相談相手として、また、たまには愚痴のはけ口としてご利用いただき、金沢大学における産学官共同研究支援活動と連携の強化を念頭に、短期に成果の出るようなものづくりのネタ探しと事業化促進の支援を重点に活動します。



しき ひろゆき
志岐 弘之

有限会社日本ビジネスサポート協議会
代表取締役社長

専門分野

ベンチャービジネス論、キャリア教育論、大学産学連携・知的財産制度設計・管理、大学発ベンチャー創出・育成論及び実務支援、企業経営・財務・法務・営業等実務支援

本年4月1日付でイノベーション創成センター客員教授に採用されました。業務内容は、本学の産学官連携に関する講演、指導及び助言を職務として拜命しております。

これまで、約30年間、全国の2万社程度のベンチャー企業の現場で、創業準備から解散・清算に至るまで経営、財務、法務、営業・販売、知財創出・管理、技術移転、産学官連携、市場調査、プロジェクト管理等のご相談に総合処理型専門家としてコンサルティングを行ってまいりました。中でも大学発ベンチャーについては、経済産業省委託事業実施専門家として多くの主に国立大学法人のベンチャー支援を手がけ、KUTLO(金沢大学ティー・エル・オー)を通じ、本学発ベンチャーも数社ご支援させていただいたところです。また、他の国立大学法人において、大学TLO事業(知財創出・管理・活用)計画策定・実施・進捗管理、産学連携推進及び大学発ベンチャー支援制度設計等を手がけました。

昨年度は、本学イノベーション創成センターでの特任教授として、本学の産学連携・知財体制の制度設計の指導、助言を行いました。本年度も、担当職務を通じ、わが国で3番目に長い歴史を有し、伝統と総合性を持った本学の教育・研究に続く第3の使命である石川圏域の知の拠点としてのイコール・パートナーシップを持った社会貢献展開に少しでも寄与できるよう懸命に努めるつもりですので、よろしくお願い申し上げます。

客員教員紹介



しば くにお
斯波 久二雄

株式会社 BM 総研
吹田事務所長

専門分野

バイオ分野の技術シーズ発掘・技術評価、遺伝子治療、医薬品開発、農薬開発、薬物体内動態

東大理・化学の学部および大学院で、分析化学（磁気共鳴およびバイオセンサー）を専攻し、修士課程修了後、住友化学工業に入社、長らく医薬品および農薬の薬物体内動態研究および放射性医薬品開発などに従事しておりました。その後、渡米し、ケースウエスタンリザーブ大学を経て同地の遺伝子治療ベンチャー企業に入社、上級研究員として米国バイオベンチャー企業を内側から直接体験する機会に恵まれました。

帰国後入社した日本政策投資銀行系のベンチャーキャピタル・BHP 社および現在の BM 総研では、大学・国立研究機関等の技術シーズの発掘、技術評価、事業性評価、ビジネスプラン策定支援およびコンサルティングなどを行い、バイオベンチャーの立ち上げ支援に参画しました。また、京大産官学連携センターフェロー、広島県産業技術科学研究所アドバイザーなどを務めています。

このような知識と経験をベースに、金沢大学の産学連携活動に少しでもお役に立てれば幸いと考えています。バイオベンチャーを取り巻く環境は厳しさをましていますが、ベンチャーを起業される皆様にアメリカンドリームを実現した米国バイオベンチャー企業 CEO の言葉を贈ります。

Work hard! Have fun! Make money!



せりよう こういち
瀬領 浩一

専門分野

機械加工、IT による業務革新、技術開発、営業支援、産学連携活動、人材活用、ベンチャー支援

本年 4 月より、このたび客員教授を拝命いたしました。最近、各種の調査によれば、世界経済に対する日本国の貢献度が下がっています。当センターの設立目的の一つは、大学の知を産業界の国際競争力強化に役立ててることではないかと理解しております。私も、学生時代の機械工学の職人修行、企業での専門家修行や管理者修行の経験を生かし少しでもお役に立てればと思って頑張りたいと思っています。

大学の中で、顧客企業とともに世界の産業発展に役立つような活動を行えば面白い、ひいてはそれが当センターが自活できる部門（事業部のようなもの）になる秘訣ではないかと思っています。この部門に属する人は、研究・試験・提案・相談をベースに企業の利益を増大させ、その利益を企業と山分けすることにより、生活していくことを夢見ることができます。

これまで、そんな事を夢見て、一つ一つの案件には活動範囲を一回り大きくした視点で絵（それを勝手に「1枚ベスト A3 ベター」と呼んでいます）を描きながら考えてきました。最近、イノベーションの阻害要因はヒトの「ココロ」の中にあるのではとの疑問を抱きながら、「顧客の中でプロセス指向の改善策」を模索しております。



客員教員紹介



たき よしひこ
多喜 義彦

システムインテグレーション株式会社
代表取締役社長



なかい じゅん
中井 純

株式会社アットワイヤレス
代表取締役社長

専門分野

開発支援、知的財産、特許、技術移転

現在、我が国の中小企業は、今まさに、「新たなパラダイム（規範）」を求めています。その新たなパラダイムとは知的財産です。そして、中小企業だけでなく、流通や小売、そしてサービス業など、従来は知財に関心が無かった業種でも、知財が重要な経営要素であることに、多くの経営者が気付き始めました。我が国の企業にとって、コスト、品質、納期など、従来の競争力は急速に衰えています。知的財産権は今や国際的な共通ルールとなりつつあり、唯一、国境や思想信条を超えた、侵すことのできない明白なパラダイムとなっているからです。このような知財経営を目指す経営者に対して、知的財産における意識の啓蒙や、知財活用のための戦略的かつ具体的な事例を挙げて企業とともに歩んでいくのが私の使命です。

専門分野

半導体、モバイル、通信、光通信、ディスプレイ、ベンチャー経営

大学では半導体を専攻しましたが、ソニーにてゼロからのCD開発に従事。その後MITで光通信の分野で博士号取得。ソニーに戻って、デジタルオーディオ、カーナビ、衛星通信や人工知能を手掛けました。ビジネス経験を積むためにソニーを飛び出して、外資系とベンチャーで常に産業のデジタル化の最前線で仕事をしてきました。ソニーでデジタル家電。ノーテルネットワークで通信、その後、シリコンバレーのシステム半導体メーカーの日本法人社長として、PC、セットトップボックス、PHS用のチップセットを開発・販売しました。シーメンスでIPネットワーク、そしてベンチャーの日本通信でモバイルのブロードバンドサービスを立ち上げました。

その後、超高速プロセッサ開発ベンチャー、アイピーフレックスの社長として会社再建を成功させました。今は、通信に戻り、オープンソースソフトウェア技術者無線LAN、IP-電話やルータなどへ応用する事を使命としたベンチャーである(株)アットワイヤレスで新しい通信サービスや機器の創出を手がけています。

今後、IT全般における広範な知識と経営経験を日本のベンチャー育成のために役立てたいと切に願っています。金沢大学の持つ素晴らしいビジネスシーズを起業に結びつける事が客員教授としての夢です。

客員教員紹介



ひらの たけつく
平野 武嗣

(有) 金沢大学ティ・エル・オー (KUTLO) 代表取締役社長
経済産業省・創造的産学連携事業産学連携プロデューサー

専門分野

国内外への技術移転企画、交渉、ライセンス契約

約7年間勤めた文部科学省産学官連携コーディネーターを辞し、本年4月からTLO業務に専念している。TLO法の下、金沢大学においても7年前にKUTLOが設立されて以来その役員を兼務してきた。この間数個の優れた市場性のある発明に恵まれてライセンス契約の実績も示すことができた。しかし、未だ助走期間が終わった程度でこれからの本格的なスピードアップを図らねばならない。客員教授として金沢大学の発明の技術移転を促進することは勿論、昨年からは青森から京都までの日本海地域10大学に所属する2600名のライフサイエンスの研究者の発明を実用化に向けて技術移転を進める基盤もできた。「2600名の優れた研究者の研究成果の幾つかが実用化に結びつかない筈がない」との確信を持っている。産学連携の出口の担当機関としてこの数年が大飛躍の試金石になる。私はこれまで、このような新しい挑戦的仕事では「決して諦めない」ことにしている。

産学官地域アドバイザー紹介

平成21年度 産学官地域 アドバイザー一覧

栗 正治

栗井 憲之

小松市 経済環境部商工振興課 課長

市川 伸彦

株式会社日本政策投資銀行 北陸支店 次長

大江 聡

株式会社北國銀行 支店支援部支店支援課 課長代理

奥野 信男

丸文通商株式会社 営業支援グループ 担当部長

川島 ひろ子

石川県保健環境センター 技監

小石 芳一

株式会社北陸銀行 支店部 石川地区駐在 副部長

小木 茂

金沢市 産業局ものづくり政策課 主査

高尾 浩久

野村證券株式会社 金沢支店 次長

舟津 泰雄

金沢信用金庫 営業統括部 法人営業室長

水口 由紀夫

富木医療器株式会社 科学機器営業部 部長

山森 力

財団法人石川県産業創出支援機構
プロジェクト推進部 部長

(50音順 敬称略)



あわ まさはる
栗 正治

NTT勤務の頃、金沢大学様といくつか連携した活動をさせていただきました。その頃から「地域の大学様—地域の中小企業」連携した活動に関心を寄せていました。

そのような中、金沢大学様より「産学官地域アドバイザー」就任の声をかけていただきました。

これまで、地域の中小企業の先輩や仲間の方々から教えていただいた事、揉まれてきた事及び、その中でつちかかって来た事が私の財産です。

これらと大学様の持っているものを結びつけながら「ビジネスとして具現化し、地域に広めて行く。」この事を目標として、土着として育てていただいた「地域」に、少しでも尽力できるよう飛び回りたいと考えています。

何卒、よろしくお願いたします。



あらい のりゆき
栗井 憲之

小松市
経済環境部
商工振興課
課長

産学官地域アドバイザーになって2年目となります。昨年後半からは、景気後退に伴う雇用対策、中小企業対策に追われ、十分に職責を果たせなかったというのが実感です。今年度に入り、イノベーション創成センターのコーディネーターの方と何度か企業訪問をさせていただき、独自技術の開発、新製品の開発に積極的に取り組んでいる中小企業者が多くあることを知りました。そのような中小企業者の手助けとなり、新たな産業を育てることによって、バランスの良い産業振興を推進したいと思いますので、金沢大学イノベーション創成センター様のお力添えを是非お願いたします。

産学官地域アドバイザー紹介



いちかわ のぶひこ
市川 伸彦
株式会社日本政策投資銀行
北陸支店
次長



おおえ さとし
大江 聡
株式会社北國銀行
支店支援部
支店支援課
課長代理

当行北陸支店に着任して2年目になります。金沢大学様とは平成17年より産学官連携協定を締結しております。今般の産学官地域アドバイザー就任を機会に、さらに連携を深め、大学のシーズと地元企業のニーズを繋ぐ役割を十分に果たしていきたいと思っております。昨年10月より民営化致しましたが、政府系金融機関として培ってきた経験・ノウハウを十分に活かして、地域経済の活性化に少しでもお役に立てるよう努めたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

地元企業の経営課題解決を図り、産学官連携により技術相談や有効な経営情報の提供を行うことで地元企業・地元経済を活性化していくことは、『地元の銀行』の使命であります。

金沢大学のシーズと地元企業のニーズの架け橋となり、人と人とのつながりを大切に信頼関係を構築することが大切だと考え、一所懸命「産学官地域アドバイザー」を務めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



おくの のぶお
奥野 信男
丸文通商株式会社
営業支援グループ
担当部長



いしし よしかず
小石 芳一
株式会社北陸銀行
支店部
石川地区駐在
副部長

(P.17の客員紹介をご覧ください)

石川県の勤務も、七尾支店、小松支店、野々市支店、今度の金沢支店と4度目になります。

また、生まれ故郷の石川県で働けることを嬉しく感じております。今回、「産学官地域アドバイザー」を拝命し、産学官連携という新たな任務に着けることに、更なる喜びと重責を感じております。何分微力ではございますが、皆様とご一緒に一生懸命努めたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

産学官地域アドバイザー紹介



こぎ しげる
小木 茂

金沢市
産業局
ものづくり政策課
主査



ふなづ やすお
舟津 泰雄

金沢信用金庫
営業統括部
法人営業室長

金沢市では、今年度「ものづくりの基盤を強める」ことを重点施策に掲げておりますが、その中で、産学官各々の技術、学術、施策の融合が重要な役割を果たすと考えております。金沢大学と地元企業との橋渡し役となるよう精一杯努めると共に、皆様方から金沢市に対するご意見・ご要望を頂戴したいと思っております。

今後ともよろしくお願いたします。

営業統括部の法人担当となって4年目に入りました。本年度は組織変更により「法人営業室」となり、新たにビジネスマッチングや産学官連携の分野も担当しております。今回の産学官地域アドバイザー拝命を機に、大学のシーズと企業のニーズを繋ぐアドバイザーとして、これまで以上に積極的な活動をしたいと考えております。私ども地域金融機関の強みである「現場主義による鮮度の高い企業情報」を活用して、貢献できるよう微力ながら努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。



みずぐち ゆきお
水口 由紀夫

富木医療器株式会社
科学機器営業部
部長



やまもり つとむ
山森 力

財団法人
石川県産業創出支援機構
プロジェクト推進部
部長

医療関係の営業で培った経験、知識を生かして今後の大学の活性化、地域の活性化、また新たな物づくりに少しでもお役に立てることが出来るよう皆様方と一緒に一生懸命努めたいと思っております。

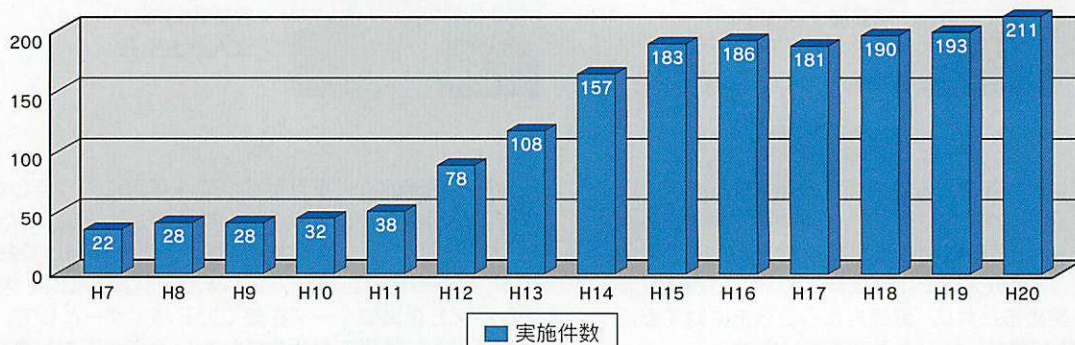
何卒、よろしくお願いたします。

今年4月から石川県産業創出支援機構 (ISICO) プロジェクト推進部にきました。

これまで、企業立地や金融関係を担当していました。県内の企業のニーズをお聞きして、産学官連携を通じた研究開発をお手伝いし、やる気のある元気な企業を応援していきたいと思っています。よろしくお願いたします。

平成 20 年度 共同研究一覽

本号では、平成 20 年度に契約された 211 件の産学官共同研究テーマの一部を紹介します。平成 20 年度の共同研究件数は前年比で増加しましたが、さらに関連各部門には広く共同研究への取り組みをお願いしております。経済危機のさなか、きびしい状況ではありますが、企業の皆様は、次を見据えた発展のためにも、大学の研究力をぜひご活用ください。掲載した以外にも共同研究に対応可能な教員はセンターから御紹介しますので遠慮なくお問い合わせください。大学と連携した金融機関を通じての技術相談の申込みやイノベーション創成センター協力会の技術アドバイスサービスをきっかけとして共同研究を検討される企業も増えてきています。展示会等でも出張技術相談室・共同研究相談室を開設してお待ちしております。



211 件

(各部署の 50 音順)

研究題目	教員所属部署	職名	氏名
ピストンロッドの残留応力評価	人間社会研究域人間科学系	教授	佐々木敏彦
車輪リム内部残留応力分布の測定に関する研究	人間社会研究域人間科学系	教授	佐々木敏彦
オルニチンの経口摂取が最大運動後の疲労抑制に及ぼす効果	人間社会研究域人間科学系	教授	出村 慎一
オルニチンの経口摂取が運動後の成長ホルモン分泌及び疲労回復に及ぼす効果	人間社会研究域人間科学系	教授	出村 慎一
アフガニスタン・バーミヤーン遺跡出土陶器の研究	人間社会研究域歴史言語文化学系	教授	佐々木達夫
磁性体を用いた痛に対する温熱療法	大学院自然科学研究科	教授	長野 勇
非侵襲生体計測技術の安全・信頼性工学への応用研究	大学院自然科学研究科	特任准教授	山越 健弘
モータースポーツ中の生体情報計測に関する研究	大学院自然科学研究科	特任准教授	山越 健弘
安全運転支援を目指した光電脈波利用血中アルコール濃度検出技術の研究開発	大学院自然科学研究科	特任准教授	山越 健弘
高速AFMによる機能性材料の動的解析	理工研究域数物科学系	教授	安藤 敏夫
ガンマ線バースト検出器の製作	理工研究域数物科学系	教授	村上 敏夫
新規界面活性剤の毛髪への作用に関する研究	理工研究域物質化学系	教授	浅川 毅
茶成分の化学的性質に関する基礎的研究	理工研究域物質化学系	教授	国本 浩喜
茶成分の化学的性質に関する研究	理工研究域物質化学系	教授	国本 浩喜
化粧品応用を目指したマルチ銅酸化酵素(CueO、BODなど)の機能改変	理工研究域物質化学系	教授	櫻井 武

注 1) 教員の所属部署等は契約時時点のものです。 2) 複数教員での共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

研究題目	教員所属部署	職名	氏名
酸素還元酵素の精密構造解析	理工研究域物質化学系	教授	櫻井 武
ヘテロ元素を含む新規不斉配位子の開発研究	理工研究域物質化学系	教授	千木 昌人
高耐久性有機薄膜太陽電池の開発	理工研究域物質化学系	教授	高橋 光信
水道管内部洗浄の必要性	理工研究域物質化学系	准教授	長谷川 浩
重金属等不溶出化技術の実証試験と応用についての研究	理工研究域物質化学系	准教授	長谷川 浩
重金属等の汚染水に対する新規凝集剤の開発	理工研究域物質化学系	准教授	長谷川 浩
ナノ粒子の合成及び配列制御	理工研究域物質化学系	教授	山岸 忠明
複雑形状中子のバリ取りロボット化	理工研究域機械工学系	准教授	浅川 直紀
光干渉式による3次元計状計測の基礎技術開発	理工研究域機械工学系	教授	安達 正明
湿式摩擦材および自動変速機油に関する基礎的研究	理工研究域機械工学系	講師	岩井 智昭
ゴルフボールの衝突特性に関する研究	理工研究域機械工学系	教授	岩田 佳雄
高周波スパッタリングで作製した有機高分子薄膜による新規固体潤滑膜の開発と応用	理工研究域機械工学系	准教授	岩森 暁
サファイアウエハのレーザー切断に関する研究	理工研究域機械工学系	教授	上田 隆司
ガス系消火設備の避圧措置に係る実験研究	理工研究域機械工学系	教授	川端 信義
道路トンネルにおける火災時の煙流動シミュレーション	理工研究域機械工学系	教授	川端 信義
ルーバ通過時の空気流れとラジエータ冷却効率に関する研究	理工研究域機械工学系	教授	木綿 隆弘
直結式給水タンクの研究開発	理工研究域機械工学系	教授	木綿 隆弘
翼揺動量可変式高効率小型垂直軸風力発電システムの研究開発	理工研究域機械工学系	教授	木綿 隆弘
高回収率を可能とする新規水素精製PSAプロセスの開発	理工研究域機械工学系	准教授	児玉 昭雄
低温再生用デシカントローターの開発	理工研究域機械工学系	准教授	児玉 昭雄
スポーツマシンのローターに関する研究	理工研究域機械工学系	助教	酒井 忍
二重機結び機の開発	理工研究域機械工学系	教授	新宅 救徳
車両前方環境認識に関する研究	理工研究域機械工学系	講師	菅沼 直樹

注 1) 教員の所属部署等は契約時時点のものです。 2) 複数教員での共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

平成 20 年度 共同研究一覧

研究題目	教員所属部署	職名	氏名
スノーMZシステムと他融雪装置との対比による優位性評価	理工研究域機械工学系	教授	瀧本 昭
熱電モジュールを利用した熱交換器の高効率化	理工研究域機械工学系	教授	瀧本 昭
レーザ加工パターンによる静摩擦係数の向上	理工研究域機械工学系	講師	田中 隆太郎
PVDコーティング工具による難削材の高速切削に関する研究	理工研究域機械工学系	教授	細川 晃
容積振動型自動血圧計の開発研究	理工研究域機械工学系	教授	山越 憲一
非侵襲血圧・動脈硬化度・動静脈酸素飽和度同時計測法の開発研究	理工研究域機械工学系	教授	山越 憲一
自動健康モニタリングシステムの開発研究	理工研究域機械工学系	教授	山越 憲一
手首における連続血圧測定法の研究開発	理工研究域機械工学系	教授	山越 憲一
在宅療養における生体モニタリングシステムの研究開発	理工研究域機械工学系	教授	山越 憲一
在宅ヘルスケアのための浴槽内生体情報計測システムの開発	理工研究域機械工学系	教授	山越 憲一
クランクシャフトミラーの熱伝導及び熱変位の研究	理工研究域機械工学系	教授	山崎 光悦
多自由度鉗子の開発に関する研究	理工研究域機械工学系	教授	米山 猛
超音波押出加工技術の研究	理工研究域機械工学系	教授	米山 猛
射出成形におけるCAEと実験との照合に関する研究	理工研究域機械工学系	教授	米山 猛
導電性衣服を用いた筋電計測システムの開発	理工研究域電子情報学系	准教授	秋田 純一
動画像のフレーム補間技術の開発	理工研究域電子情報学系	講師	今村 幸祐
プラズマ切断機用電極の消耗メカニズムの究明	理工研究域電子情報学系	教授	上杉 喜彦
小電力RF集積回路の研究	理工研究域電子情報学系	准教授	北川 章夫
新規不揮発性メモリ小規模アレイTEG開発	理工研究域電子情報学系	准教授	北川 章夫
誘導熱プラズマの直接照射によるポリマー固体溶発現象とそのプラズマクエンチング効果の検討	理工研究域電子情報学系	准教授	田中 康規
SF6ガスアーク遮断現象の研究	理工研究域電子情報学系	准教授	田中 康規
パルス変調プラズマの冷却効果がナノ粒子生成に及ぼす影響の検証	理工研究域電子情報学系	准教授	田中 康規
推測航法におけるカルマンフィルタ処理に関する研究	理工研究域電子情報学系	教授	中山 謙二
信号を分離し、選択的に提示する機能を有した遠隔会議システム	理工研究域電子情報学系	教授	中山 謙二
連想メモリシステムの範囲検索及び低消費電力化に関する研究	理工研究域電子情報学系	教授	松田 吉雄

注 1) 教員の所属部署等は契約時時点のものです。 2) 複数教員での共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

平成 20 年度 共同研究一覧

研究 題 目	教員所属部署	職 名	氏 名
画像情報に基づく硬化コンクリートの配合推定	理工研究域環境デザイン学系	教授	五十嵐 心一
排水処理装置の研究開発	理工研究域環境デザイン学系	教授	池本 良子
長坂用水追加指定に係る調査研究	理工研究域環境デザイン学系	助教	池本 敏和
寺津用水に係る調査研究	理工研究域環境デザイン学系	教授	北浦 勝
浸透性防錆材及び浸湿性塗材を用いた補修効果に関する研究	理工研究域環境デザイン学系	准教授	久保 善司
雪氷路面の凍結防止対策に関する研究	理工研究域環境デザイン学系	教授	関 平和
橋梁アセットマネジメントシステム開発	理工研究域環境デザイン学系	教授	近田 康夫
北陸地方産フライアッシュによるアルカリシリカ反応抑制対策に関する研究	理工研究域環境デザイン学系	教授	鳥居 和之
低アルカリ性セメント硬化体の空隙構造とイオンの移動に関する研究(Ⅲ)	理工研究域環境デザイン学系	教授	鳥居 和之
ASRコンクリート構造物の合理的な維持管理手法の確立に関する共同研究	理工研究域環境デザイン学系	教授	鳥居 和之
車両走行による橋梁振動を低減させるための装置に関する数値解析による研究	理工研究域環境デザイン学系	准教授	深田 宰史
ポリエチレンネットを用いた防護柵に作用する雪圧の研究	理工研究域環境デザイン学系	教授	前川 幸次
ポケット式落石防護網の性能評価に関する研究	理工研究域環境デザイン学系	教授	前川 幸次
室内浮遊粉塵におけるたばこ煙寄与率評価	理工研究域自然システム学系	教授	大谷 吉生
ガラスからの不純物溶出防止のための技術開発	理工研究域自然システム学系	准教授	奥寺 浩樹
機能ミスト発生メカニズム解明及び高効率化に関する研究	理工研究域自然システム学系	准教授	瀬戸 章文
超臨界二酸化炭素への染料の溶解性に関する研究	理工研究域自然システム学系	教授	田村 和弘
CO ₂ を利用した高機能脂肪族ポリカーボネート樹脂の開発	理工研究域自然システム学系	教授	新田 晃平
微生物を用いた環境浄化資材の研究・開発	理工研究域自然システム学系	教授	福森 義宏
次世代型ウエハー熱処理用Hot Plateの開発支援	理工研究域自然システム学系	教授	山田 敏郎
プラスチックフィルムの製膜・延伸の理論と応用研究	理工研究域自然システム学系	教授	山田 敏郎
解析による二軸延伸プロセスのフィルムシート挙動把握に関する研究	理工研究域自然システム学系	教授	山田 敏郎
乾式紡糸工程のシミュレーションに関する研究	理工研究域自然システム学系	教授	山田 敏郎
医学的に有用な天然物素材の探索ならびに研究開発	医学系研究科	特任教授	鈴木 信孝
メタボリックシンドロームにおけるグラボノイドの有効性に関する臨床試験	医学系研究科	特任教授	小林 淳二

注 1) 教員の所属部署等は契約時時点のものです。 2) 複数教員での共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

平成 20 年度 共同研究一覧

研究題目	教員所属部署	職名	氏名
非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)肝発癌モデルに対するNIK-333の抗腫瘍効果の検討	医薬保健研究域医学系	教授	金子 周一
メタボリックチップの開発	医薬保健研究域医学系	教授	金子 周一
不死化子宮内膜細胞を用いたプロゲステロン・ジェノゲストの薬理作用の検討	医薬保健研究域医学系	講師	京 哲
緑内障モデル動物における網膜組織構造変化および視機能変化の病態生理学的・薬理的評価	医薬保健研究域医学系	教授	杉山 和久
過栄養状態の肝臓から分泌される新規インスリン抵抗性惹起・血管新生抑制因子の機能解析	医薬保健研究域医学系	准教授	篁 俊成
脂質メディエータースフィンゴシン-1-リン酸(S1P)を用いた新しい血管新生・再生療法の開発	医薬保健研究域医学系	教授	多久和 陽
抗菌創外固定の開発	医薬保健研究域医学系	准教授	土屋 弘行
新しい創外固定の開発と臨床応用	医薬保健研究域医学系	准教授	土屋 弘行
液体窒素を使用した再建手術の新しい手術器械開発	医薬保健研究域医学系	准教授	土屋 弘行
組換えHGFタンパク質による運動器疾患治療法の開発	医薬保健研究域医学系	准教授	土屋 弘行
I-123標識MIBGを用いた交感神経機能の自動定量処理ソフトウェアの開発	医薬保健研究域医学系	准教授	中嶋 憲一
心筋SPECT画像における汎用定量画像処理法の開発	医薬保健研究域医学系	准教授	中嶋 憲一
腰椎前弯形成器具の開発研究	医薬保健研究域医学系	教授	藤原 勝夫
RAGE阻害剤(糖尿病性腎症治療薬)の共同研究	医薬保健研究域医学系	教授	山本 博
糖尿病網膜症の基礎的研究	医薬保健研究域医学系	教授	山本 博
Erythropoietin阻害因子の基礎的検討	医薬保健研究域医学系	教授	和田 隆志
24-オキシコレステロール類の不斉還元法の研究	医薬保健研究域薬学系	教授	石橋 弘行
抗酸化機能性食品製造法の開発研究	医薬保健研究域薬学系	教授	太田 富久
マメ科植物種子に由来する健康リスク軽減成分の探索	医薬保健研究域薬学系	教授	太田 富久
凝集剤・消毒剤・消臭剤・汚染土壌処理剤に関する安全性及び機能解析に関する研究並び開発	医薬保健研究域薬学系	教授	太田 富久
カシューナッツの機能性評価に関する研究	医薬保健研究域薬学系	教授	太田 富久
紫外線による表皮細胞のDNA修復機構に関する研究	医薬保健研究域薬学系	教授	松永 司
グルタチオンノックダウン評価系による肝障害性の予測検討	医薬保健研究域薬学系	教授	横井 毅
反応性代謝物の評価に関する研究	医薬保健研究域薬学系	教授	横井 毅
作業療法技術の実地改良・開発	医薬保健研究域保健学系	教授	生田 宗博

注 1) 教員の所属部署等は契約時時点のものです。 2) 複数教員での共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

平成 20 年度 共同研究一覧

研究題目	教員所属部署	職名	氏名
リハビリテーションにおける作業療法効果	医薬保健研究域保健学系	教授	生田 宗博
超高解像度液晶ディスプレイの開発	医薬保健研究域保健学系	教授	市川 勝弘
カラーモニタにおける画像表示における色調と画質特性に関する研究	医薬保健研究域保健学系	教授	市川 勝弘
腫瘍診断に用いるPET薬剤の開発・評価と製剤化	医薬保健研究域保健学系	教授	川井 恵一
腫瘍診断に用いる新規PET薬剤の開発と評価	医薬保健研究域保健学系	教授	川井 恵一
光計測技術の医療応用	医薬保健研究域保健学系	教授	川井 恵一
臨床用排便検知装置の開発	医薬保健研究域保健学系	准教授	紺家 千津子
使いやすい「修正テープ」の研究開発	医薬保健研究域保健学系	教授	柴田 克之
抗菌繊維使用各種商品の抗菌活性研究	医薬保健研究域保健学系	助教	杉谷 加代
合成繊維抗菌性の検討	医薬保健研究域保健学系	助教	杉谷 加代
インテリジェンス浴室の開発評価研究	医薬保健研究域保健学系	准教授	関根 克尚
体温連続計測システムに関する研究	医薬保健研究域保健学系	教授	根本 鉄
人体生理量測定技術の適用可能性調査研究	医薬保健研究域保健学系	教授	根本 鉄
HCV肝炎患者のIFN有効性と血中アミノ酸に関する検討	医薬保健研究域保健学系	教授	本多 政夫
がんにおけるAMTを用いた臨床試験	医学部附属病院	教授	金子 周一
人工関節の適正使用に関する研究	医学部附属病院	助教	加畑 多文
デジタルマンモグラフィにおける画像観察システムの研究	医学部附属病院	准教授	川島 博子
15Mサブピクセル超高解像度ディスプレイの臨床観察者試験	医学部附属病院	准教授	川島 博子
ナビゲーションを使用した脊柱変形の治療	医学部附属病院	准教授	川原 範夫
3D OCT-1000を用いた緑内障データ収集とソフトウェア開発	医学部附属病院	教授	杉山 和久
子宮頸部腫瘍に対する新しい診断システムに関する検討	医学部附属病院	教授	全 陽
ヒト血中サイトカインの高感度一括測定系の検討	医学部附属病院	教授	古川 侑
レビー小体型認知症の周辺症状に対する抑肝散の有用性に関する研究	医学部附属病院	教授	山田 正仁
アルツハイマー病診断体系実用化プロジェクト (J-ADNI全国臨床研究)	医学部附属病院	教授	山田 正仁
5-アミノレプリン酸を用いた転移性胃癌の術中診断の開発	がん研究所	准教授	遠藤 良夫

注 1) 教員の所属部署等は契約時時点のものです。 2) 複数教員での共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

平成20年度 共同研究一覧

研究題目	教員所属部署	職名	氏名
腹膜播種がん治療用抗体の評価研究	がん研究所	准教授	遠藤 良夫
K19-Wnt1/C2mEマウスに対するEP4受容体拮抗薬の抗腫瘍作用の検討	がん研究所	教授	大島 正伸
白髪に関する基礎的研究	がん研究所	教授	西村 栄美
幹細胞及び癌幹細胞の分離・同定に関する研究	がん研究所	教授	平尾 敦
HGF蛋白質及びNK4蛋白質を用いた難治性疾患治療法の開発	がん研究所	教授	松本 邦夫
マウス肺癌移植モデルマウスにおける血中アミノグラム変化のメカニズム検討	がん研究所	教授	矢野 聖二
膀胱癌患者の診断マーカーに関する探索的研究	がん研究所	教授	矢野 聖二
好熱性微生物が動物の腸管細胞等を与える遺伝学的影響評価	学際科学実験センター	准教授	西内 巧
インフォマティクスを用いた分化全能性研究	学際科学実験センター	助教	西山 智明
リメディアル教育むけのICT教育用コンテンツの開発	総合メディア基盤センター	教授	佐藤 正英
基礎教育むけのICT教育用コンテンツの開発	総合メディア基盤センター	教授	鈴木 恒雄
自学自習を進めるためのSNS型ポータルサイトの開発	総合メディア基盤センター	教授	鈴木 恒雄
宇宙空間における骨代謝制御: キングョの培養ウロコを骨のモデルとした解析	環日本海域環境研究センター	助教	鈴木 信雄
魚類のウロコを用いた宇宙生物学的研究	環日本海域環境研究センター	助教	鈴木 信雄
培養軟骨細胞における確率共振現象の効果	環日本海域環境研究センター	准教授	田中 茂雄
放射性同位元素分析によるズワイガニの年齢評価	環日本海域環境研究センター	助教	濱島 靖典

その他 57件

注 1) 教員の所属部署等は契約時時点のものです。 2) 複数教員での共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

平成 21 年度 シーズ発掘試験採択一覧

A：発掘型 B：発展型

注) 教員及び担当 CD の所属・職名は申請時時点のものです。

No.	課題名	型	代表研究者			担当CD		
			名前	部局・課	役職	氏名	所属	役職
1	電磁場変動形熱プラズマによるナノ粒子の新しい高速選択生成法の開発	A	田中 康規	理工研究域電子情報学系	准教授	平野 武嗣	金沢大学イノベーション創成センター	産学官連携コーディネーター
2	骨腫瘍に対する抗がん剤・カフェイン含有リン酸カルシウムペーストの実用化	A	白井 寿治	医薬保健研究域医学系	助教	長江 英夫	金沢大学イノベーション創成センター	産学官連携コーディネーター
3	新規インドール化合物を用いた骨粗鬆症の治療薬の研究開発	A	鈴木 信雄	環日本海域環境研究センター	助教	長江 英夫	金沢大学イノベーション創成センター	産学官連携コーディネーター
4	言語聴覚障害児の訓練用文章カード作成に関する開発研究	A	能登谷 晶子	医薬保健研究域保健学系	教授	長江 英夫	金沢大学イノベーション創成センター	産学官連携コーディネーター
5	次世代型安全運転支援を目指した車内ヘルメットシステムの開発研究	A	山越 憲一	理工研究域機械工学系	教授	長江 英夫	金沢大学イノベーション創成センター	産学官連携コーディネーター
6	食品に含まれる最終糖化蛋白の健康評価法の開発	A	山本 博	医薬保健研究域医学系	教授	長江 英夫	金沢大学イノベーション創成センター	産学官連携コーディネーター
7	鼻腔原発性悪性黒色腫を標的とした内用放射線療法の開発	A	鷺山 幸信	医薬保健研究域保健学系	助教	長江 英夫	金沢大学イノベーション創成センター	産学官連携コーディネーター
8	光周波数掃引法による高分解能レーザー光距離センシングシステムの開発	A	飯山 宏一	理工研究域電子情報学系	准教授	奥野 信男	金沢大学イノベーション創成センター	産学官地域アドバイザー
9	創薬支援ツールとしてのトランスporter中和抗体作成技術の開発	A	加藤 将夫	医薬保健研究域薬学系	教授	奥野 信男	金沢大学イノベーション創成センター	産学官地域アドバイザー
10	医薬品開発に有用な自動縮合反応剤の開発	A	国嶋 崇隆	医薬保健研究域薬学系	教授	奥野 信男	金沢大学イノベーション創成センター	産学官地域アドバイザー
11	個人被曝監視用「パーソナル・ナノ粒子サンプラ」の開発	A	古内 正美	理工研究域環境デザイン学系	教授	奥野 信男	金沢大学イノベーション創成センター	産学官地域アドバイザー
12	汎用レーザーによる表面周期構造の創成と気体軸受への応用	A	古本 達明	理工研究域機械工学系	助教	奥野 信男	金沢大学イノベーション創成センター	産学官地域アドバイザー
13	脂質メディエーターS1P受容体のサブタイプ選択化による新しい血管新生療法の開発	A	岡本 安雄	医薬保健研究域医学系	准教授	渡辺 良成	金沢大学イノベーション創成センター	教授
14	がん患者の予後判定のための DNAメチル化高感度定量測定技術開発	A	川上 和之	がん研究所	准教授	渡辺 良成	金沢大学イノベーション創成センター	教授
15	木質バイオマスを利用した天然保存料ポリリジン発酵プロセスの開発	A	国本 浩喜	理工研究域物質化学系	教授	渡辺 良成	金沢大学イノベーション創成センター	教授
16	新規細胞外マトリックスタンパク質を用いた中枢神経再生・修復の技術開発	A	郡山 恵樹	医薬保健研究域医学系	助教	渡辺 良成	金沢大学イノベーション創成センター	教授
17	能登珪藻土の吸湿能を活用したデシカント調湿空調システムの開発	A	兎玉 昭雄	理工研究域機械工学系	准教授	渡辺 良成	金沢大学イノベーション創成センター	教授
18	超音波刺激応答性ナノキャリアによるピンポイント抗がん剤投与システムの開発	A	清水 宣明	環日本海域環境研究センター	教授	渡辺 良成	金沢大学イノベーション創成センター	教授

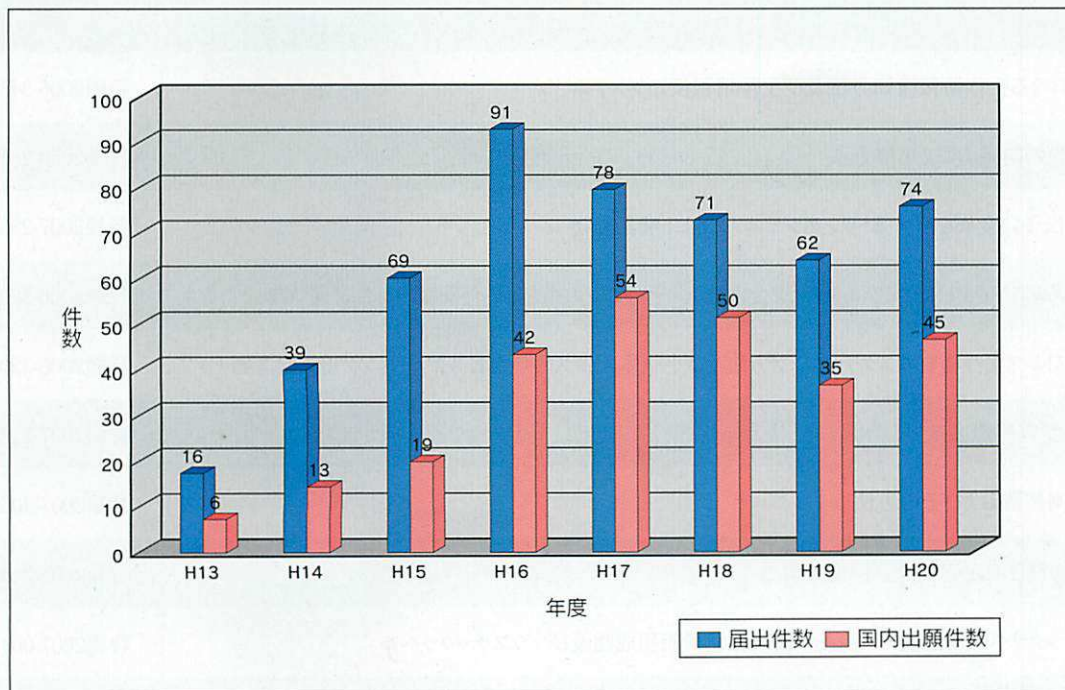
平成 21 年度 シーズ発掘試験採択一覧

No.	課題名	型	代表研究者			担当CD		
			名前	部局・課	役職	氏名	所属	役職
19	低環境負荷ラジカル生成法による木質系バイオマスの糖化前処理	A	仁宮 一章	環日本海域環境研究センター	助教	渡辺 良成	金沢大学イノベーション創成センター	教授
20	新しい高純度有機酸化試薬の開発	A	松尾 淳一	医薬保健研究域薬学系	准教授	渡辺 良成	金沢大学イノベーション創成センター	教授
21	損傷神経修復を促す天然型培養基材の開発	A	横山 茂	医薬保健研究域医学系	准教授	渡辺 良成	金沢大学イノベーション創成センター	教授
22	高速高密度自由曲面板厚評価システムの開発	A	浅川 直紀	理工研究域機械工学系	准教授	分部 博	金沢大学イノベーション創成センター	准教授
23	磁歪材料を用いたマイクロ球面モータの開発とその応用	A	上野 敏幸	東京大学	特任助教	分部 博	金沢大学イノベーション創成センター	准教授
24	環境に優しい新規強誘電/圧電材料の開発と応用	A	川江 健	理工研究域電子情報学系	助教	分部 博	金沢大学イノベーション創成センター	准教授
25	高感度人工感覚毛	A	北川 章夫	理工研究域電子情報学系	准教授	分部 博	金沢大学イノベーション創成センター	准教授
26	ローラ式高性能バドミントンマシンの開発	A	酒井 忍	理工研究域機械工学系	助教	分部 博	金沢大学イノベーション創成センター	准教授
27	π 共役高分子のキラル会合体形成を利用した高感度キラリティーセンサーの開発	A	前田 勝浩	理工研究域物質化学系	准教授	分部 博	金沢大学イノベーション創成センター	准教授
28	剛性可変の表面構造を持つロボットハンドの開発	A	渡邊 哲陽	理工研究域機械工学系	講師	分部 博	金沢大学イノベーション創成センター	准教授
29	高い安定性とエネルギー変換効率を有するフレキシブル有機薄膜太陽電池の開発	A	栞原 貴之	理工研究域物質化学系	助教	五十嵐 泰蔵	(有)金沢大学ティ・エル・オー	特許流通アドバイザー
30	植物の高感度応答遺伝子を利用したカビ毒検出アッセイ系の開発	A	西内 巧	学際科学実験センター	准教授	五十嵐 泰蔵	(有)金沢大学ティ・エル・オー	特許流通アドバイザー
31	化学物質の非遺伝毒性検出時間を大幅に短縮する方法の開発	A	山下 克美	医薬保健研究域薬学系	准教授	五十嵐 泰蔵	(有)金沢大学ティ・エル・オー	特許流通アドバイザー
32	GSK3 β 阻害効果に基づく新しいがん治療法の開発	A	源 利成	がん研究所	教授	海野 徹	(有)金沢大学ティ・エル・オー	ライセンスング・アソシエイト
33	薬物の組織移行性に影響する複数の血清蛋白結合状態の同時測定法	A	川井 恵一	医薬保健研究域保健学系	教授	中村 尚人	(有)金沢大学ティ・エル・オー	ライセンスング・アソシエイト
34	ラジカル反応を基盤とする新規な分子標的型抗がん剤の創生	A	谷口 剛史	医薬保健研究域薬学系	助教	中村 尚人	(有)金沢大学ティ・エル・オー	ライセンスング・アソシエイト
35	電磁界ベクトル「その場可視化」センサの開発	A	八木谷 聡	理工研究域電子情報学系	准教授	中村 尚人	(有)金沢大学ティ・エル・オー	ライセンスング・アソシエイト
36	ニンニクを起源とする骨粗鬆症予防食品の開発研究	B	米田 幸雄	医薬保健研究域薬学系	教授	海野 徹	(有)金沢大学ティ・エル・オー	ライセンスング・アソシエイト

発明届出・特許出願状況

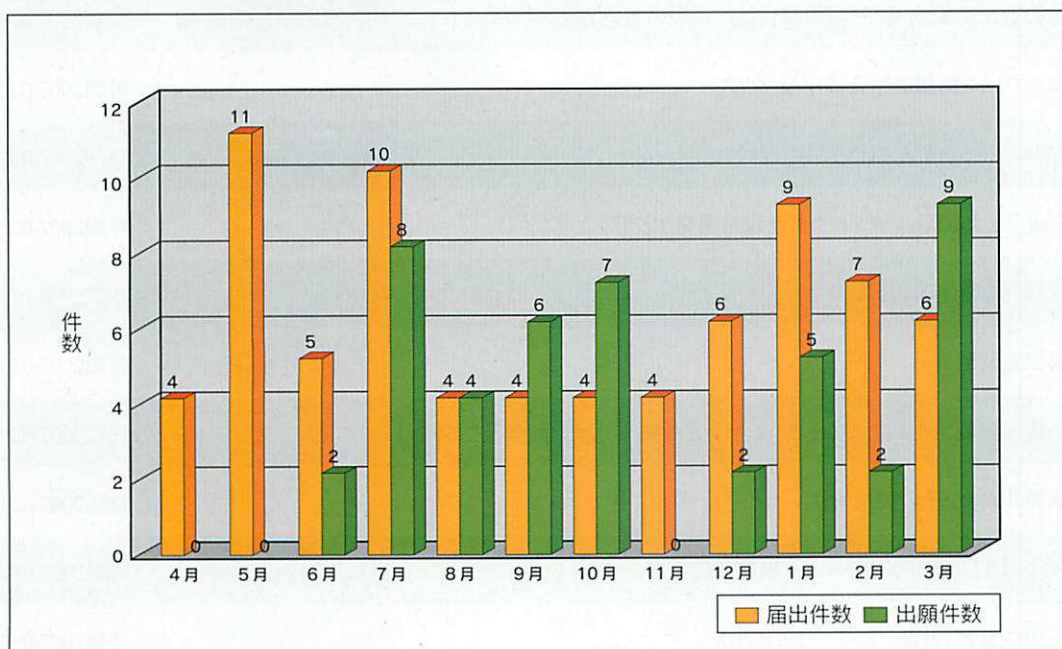
本学では、ここ数年発明届数が60～70件/年、出願件数が40～50件/年で推移しております。今後、産学連携を推進するため、これら件数の増加を図る方向です。

■表1 平成13～20年度(年度別)



(平成13～15年度: 国有特許)

■表2 平成20年4月～平成21年3月(月別)



発明届出件数 合計74件/特許出願件数 合計45件

平成 20 年度 公開特許出願一覧

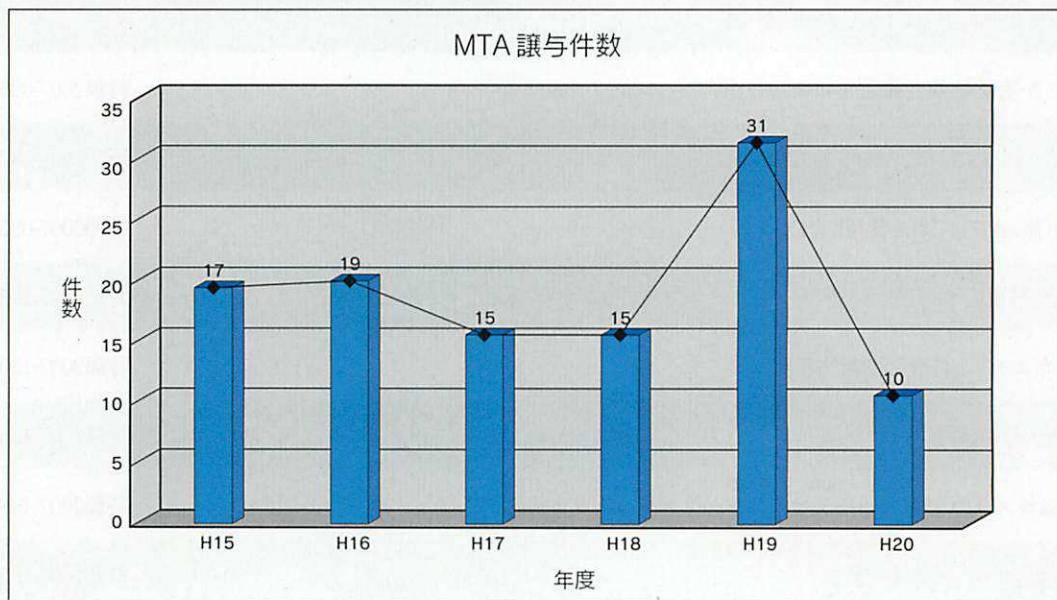
発 明 の 名 称	出 願 番 号
水中における生体情報検知方法及び生体情報検知システム	特願2006-348874
癌幹細胞の同定および単離方法	特願2006-284662
GNE遺伝子に変異を有するトランスジェニック非ヒト哺乳動物	特願2007-280909
アデノウイルスベクターによるグルタチオン合成酵素ノックダウンの系を用いた薬物誘導性肝障害ラットモデル	特願2006-320830
小胞体ストレス関与物質のスクリーニング方法及び小胞体ストレス関与物質スクリーニング用細胞評価チップ	特願2006-320650
NMDA受容体阻害剤	特願2007-138453
密度計測装置およびその方法	特願2007-306662
透明層の厚さ測定方法及び測定装置	特願2006-348834
プラスチックラベル用活性エネルギー線硬化性樹脂組成物及びプラスチックラベル	特願2007-004042
心的外傷後ストレス障害予防剤、治療剤及び飲食物	特願2007-003315
テアニン含有神経細胞新生促進組成物及び飲食物	特願2007-003314
多型部位の遺伝子配列及びヘテロ接合性の消失の判定方法、並びにそれに基づいた癌に対する医薬	特願2007-019068
グリコサミノグリカン糖鎖の生合成不全マウス	特願2007-034346
ドラッグデリバリーシステムに用いる複合体粒子	特願2007-032765
放線菌を宿主とする新しいタンパク質発現系開発と応用	特願2007-032648
画像処理機能を備える撮像装置	特願2008-013121
磁気共鳴測定装置	特願2007-039951
骨疾患治療用磁場発生装置及び、それを用いた骨疾患治療の評価及び開発システム	特願2007-038259
二核金属錯体およびその製造方法	特願2007-054789
小胞体ストレスまたは酸化ストレス由来細胞死抑制剤	特願2007-081200
シミュレーション装置、及びシミュレーション方法	特願2007-080249

発明の名称	出願番号
セラミックス・有機物複合構造体の製造方法	特願2007-095232
スピーカアレイおよびスピーカアレイシステム	特願2007-087336
ゴム成形体、並びにこれを使用したOリング	特願2007-095307
ねじり試験装置	特願2007-118046
エリスロポエチン応答性の診断方法	特願2007-130756
産業機械の制御装置および制御方法	特願2007-139365
心的外傷後ストレス障害の治療又は予防剤のスクリーニング方法	特願2007-148435
画像処理を用いた物体検出装置	特願2007-155250
ポリアリーレンメチレン類を含有する熱可塑性樹脂組成物及びその製造方法	特願2007-190974
立位姿勢規定器具	特願2007-193886
XVII型コラーゲンに関する異常分化抑制剤	特願2007-202319
余剰汚泥の減量方法及び減量化システム	特願2007-205666
発光性金属錯体およびその製造方法	特願2007-204227
XVII型コラーゲンに関する脱毛抑制剤及び毛髪の脱色素化抑制剤	特願2007-218702

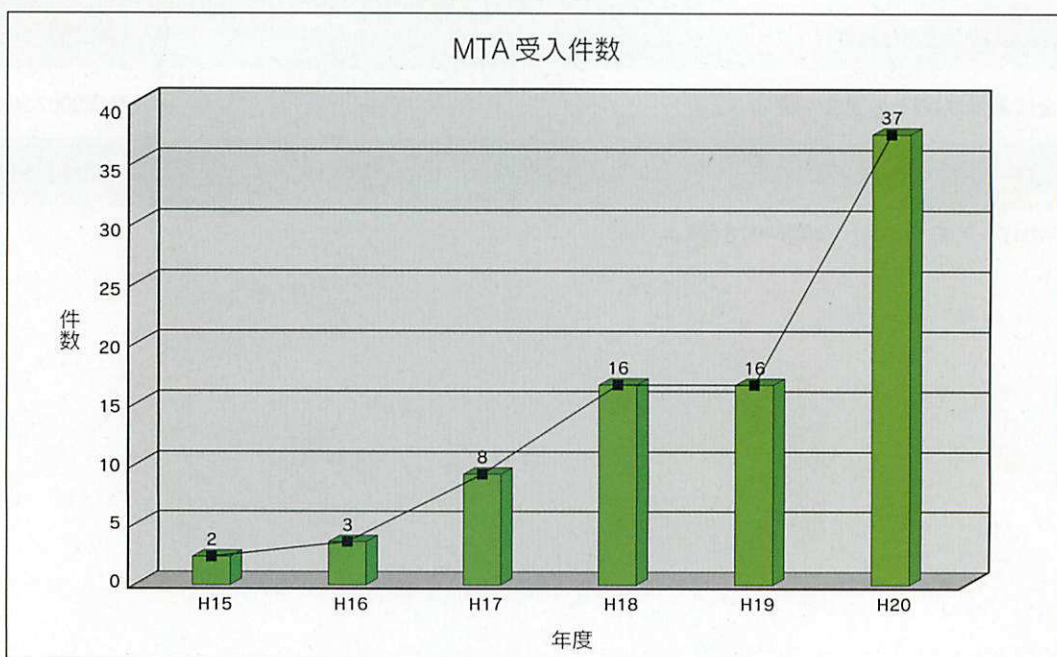
※平成20年4月1日～平成21年3月31日公開分の特許出願。

研究成果有体物の譲与・受入状況

■表1 平成15～20年度(MTA譲与 年度別)



■表2 平成15～20年度(MTA受入 年度別)



平成21年度ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 使用プロジェクト一覧

No.	研究課題	プロジェクトリーダー	
		部局・職	氏名
1	ITビジネスの起業とファンド運用に関する研究	医薬保健研究域・准教授 (自然科学研究科・人間・機械科学専攻M2)	清水 栄 (寺岡 達也(学生))
2	e-Learning教材の作成と普及や販売のための開発研究	総合メディア基盤センター・教授	佐藤 正英
3	機械システムにおける信頼性モニタリングシステムの研究	自然科学研究科・特任教授	広瀬 幸雄
4	生物の構造・組織を応用した機能材料・システムの創生研究	理工研究域・教授	坂本 二郎
5	化学物質による大気汚染・人体健康影響を定量的に評価するためのツール開発に関わる基礎的研究	医薬保健研究域・教授	早川 和一
6	人体深部の加温治療を目指したがん治療用誘導加温装置の開発	環日本海域環境研究センター・教授	山田 外史
7	非侵襲刺激応答型ナノキャリアを用いたがん治療用ドラッグデリバリーシステムの構築	環日本海域環境研究センター・教授	清水 宣明
8	抗腫瘍剤、ヒト乳頭種ウイルス性疾患予防剤又は治療剤の開発研究	医薬保健研究域・教授	太田 富久
9	Nd:YAGレーザーによる歯科治療の高度化・高機能化に関する研究	理工研究域・教授	上田 隆司
10	食品類の製造法及び安全性評価法に関する研究	医薬保健研究域・教授	太田 富久
11	安全・安価な生体材料を用いた重金属元素の回収材の開発	理工研究域・教授	福森 義宏
12	バイオイメージングによる化学発がん候補物質検出系の開発と実用化研究	医薬保健研究域・准教授	山下 克美
13	抗がん作用を示す新規低分子化合物の作用機構の解析	がん研究所・教授	向田 直史

金沢大学イノベーション創成センター協力会 産学コーディネーターの紹介

(学外) 産学コーディネーター

(22名・50音順・敬称略)

紙本 伸明	(独) 科学技術振興機構JSTイノベーションプラザ石川	科学技術コーディネーター
北嶋 正廣	(財) 石川県産業創出支援機構 新規事業支援部経営支援センター	アドバイザー
国岡 由紀	(財) 北陸産業活性化センター	科学技術コーディネーター
小島 敏男	(独) 科学技術振興機構JSTイノベーションプラザ石川	科学技術コーディネーター
後藤 裕	文部科学省科学研究振興局	主任学術調査官
土肥 淳一	(社) 石川県鉄工機電協会	専務理事
中川 脩一	(財) 北陸産業活性化センター	事業総括補佐
中野 幸一	石川県工業試験場	次長
中道 俊久	(独) 科学技術振興機構JSTイノベーションプラザ石川	技術参事・科学技術コーディネーター
中村 外男	(株) 石川県IT総合人材育成センター	専務取締役
南戸 仁美	(独) 科学技術振興機構JSTイノベーションプラザ石川	コーディネートスタッフ
南部 修太郎	(株) アセット・ウィッツ	代表取締役
廣瀬 幸雄	金沢学院大学知的戦略本部(金沢大学大学院自然科学研究科 特任教授)	本部長(教授)
本庄 直樹	(社) 石川県繊維協会	専務理事
松村 文夫	金沢市異業種研修会館	館長
三谷 忠興	(独) 科学技術振興機構JSTイノベーションプラザ石川	館長
嶺蔭 士朗	(財) 石川県産業創出支援機構	コーディネーター
宮下 克己	(社) 石川県建設業協会	専務理事
森山 直喜	(財) 石川県産業創出支援機構	専務理事
山下 孝明	石川県工業試験場	場長
山本 孝	石川県工業試験場	企画指導部長
渡邊 博佐	(独) 科学技術振興機構JSTイノベーションプラザ石川	科学技術コーディネーター

(学内) 産学コーディネーター

(21名・50音順・敬称略)

青木 健一	総合メディア基盤センター		教授・センター長
石橋 弘行	医薬保健研究域	(学際科学実験センター)	教授
上田 隆司	理工研究域	(機械工学系)	教授
太田 富久	医薬保健研究域	(薬学系)	教授
大谷 吉生	理工研究域	(自然システム学系)	教授
奥寺 浩樹	理工研究域	(自然システム学系)	准教授
佐々木 敏彦	人間社会研究域	(人間科学系)	教授
真田 茂	医薬保健研究域	(保健学系)	教授
清水 宣明	環日本海域環境研究センター		教授
須釜 淳子	医薬保健研究域	(保健学系)	教授
陳 一	人間社会研究域	(法学系)	教授
中村 浩二	環日本海域環境研究センター		教授・センター長
中村 裕之	医薬保健研究域	(医学系)	教授・環境保全センター長
並木 幹夫	医薬保健研究域	(附属病院)	教授
橋本 秀雄	理工研究域	(電子情報学系)	教授
松本 邦夫	がん研究所		教授
松本 宏一	理工研究域	(数物科学系)	准教授
山越 憲一	理工研究域	(機械工学系)	教授
山田 外史	環日本海域環境研究センター		教授
横井 毅	医薬保健研究域	(薬学系)	教授
和田 隆志	医薬保健研究域	(医学系)	教授

広 報

Bio Japan 2008 へ出展

2008.10.15
-10.17

平成 20 年 10 月 15 日(水)～17 日(金)に、パシフィコ横浜で「Bio Japan 2008」が開催されました。

本学も、4 件の医療・バイオ系研究成果(1 件は、KUTLO が所有)をポスター展示及びスライド上映により紹介し、第 2 日目には、田中 茂雄 准教授(環日本海域環境研究センター生体機能計測研究部門)がプレゼンテーションステージで発表を行い、多くの来場者の関心を集めました。以下出展内容です。



ポスターを見る来場者

	研究者名及び所属	内 容
1	田中 茂雄 准教授 (環日本海域環境研究センター)	再生骨 および 再生組織 シンプルな評価法 新しい観察システム
2	東田 陽博 教授 (医薬保健研究域 医学系)	- 自閉症 に 福音 - タンパク質 CD38
3	山嶋 哲盛 教授 (医薬保健研究域 医学系)	PUFA(多価不飽和脂肪酸)脳機能を改善
4	高倉 伸幸 教授 (がん研究所)	遺伝子操作なしで心筋再生



田中准教授による発表

北陸技術交流テクノフェア 2008 へ出展

2008.10.23
-10.24

平成 21 年 10 月 23 日(木)～24 日(金)に、福井県産業会館にて、北陸技術交流テクノフェア 2008 が開催され、2 日間で、19872 人もの来場がありました。今年度のテーマは、「今こそ挑戦! 未来を変えるテクノロジー」。出展社数 183 社の内、大学・高専からは 35 研究室の出展がありました。

このフェアは、産学官が一堂に会して北陸内外の優秀な新技術・新製品等を幅広く展示実演し、製品開発力、技術力を紹介します。北陸発の新産業、新技術の創出を目指すものです。本学からの出展は以下のとおりです。

- 理工研究域 機械工学系 教授 瀧本 昭 研究室
「新型 UV 光触媒脱臭装置」
- 医薬保健研究域 医学系 教授 藤原 勝夫 研究室
「脳波測定用姿勢外乱床移動装置」
- 金沢大学イノベーション創成センター
「センターの活動状況の紹介」

- 理工研究域 機械工学系 准教授 児玉 昭雄 研究室
「低温熱駆動デシカント除湿空調システム」
- 理工研究域 物質化学系 教授 高橋 光信 研究室
「高耐久性有機薄膜太陽電池」



第5回先端テクノ講演会—企業のR/D戦略・知財戦略と大学への期待—を開催

2008.10.28

平成20年10月28日(火)に、本学自然科学大講義棟AV講義室において、「第5回先端テクノ講演会—企業のR/D戦略・知財戦略と大学への期待—」を開催しました。

NTT、パナソニックにおける知財戦略の統括担当者を講師に招き、技術の標準化と企業の知的財産戦略(例:クロスライセンス、パテントプール化、ソフトウェアライセンスの実情)や、日本及び米国のプロパテント政策のもとで自社及び日本企業がどのように知的財産戦略を進めているかについて、分かりやすく講演していただき、本学教職員及び学生にとって、企業における知的財産戦略を理解する絶好の機会となりました。

講演会には、工学分野の教職員、学生を中心に86名が参加しました。



倉永氏による講演



志村氏による講演

特許情報検索ツール操作説明会開催

2008.11.12

平成20年11月12日(水)に、自然科学本館で、(株)発明通信社名古屋営業所から講師2名を招き、特許情報検索ツール「HYPATi」操作説明会を開催しました。

国内特許及び米国特許の検索方法を教えるもので、8名が受講しました。

JST Innovation Bridge CIC 東京 研究発表会

2008.11.18

平成20年11月18日(火)、CIC東京入居大学の研究者のイノベーションを創出する可能性のあるシーズ候補を、企業の視点で検索してもらい、産と学との出会いの「場」を提供する、「JST Innovation Bridge CIC 東京 研究発表会」が開催されました。

この発表会は、「産学共同シーズイノベーション化事業」への応募等、産学連携に発展することを目的に開催されており、金沢大学からの発表者は以下のとおりです。



源先生による発表



小川先生による発表

発表者名	発表タイトル
がん研究所 教授 源 利成	GSK3β阻害効果に基づく新規抗がん剤の開発 —新規標的スペクトラムを持つ分子標的抗がん剤の開発—
医薬保健研究域 准教授 小川 和宏	感染症治療薬および生体防御機能活性化薬・食品 —下痢治療薬および健康増進薬・保健機能食品の開発—

ビジネスクリエイト道場 キックオフフォーラムを開催

2008.11.18

平成20年11月18日(火)に、石川県立音楽堂邦楽ホールで「ビジネスクリエイト道場キックオフフォーラム」を開催しました。

「ビジネスクリエイト道場」は、今年度採択された、文部科学省の公募事業である産学官連携戦略展開事業(戦略展開プログラム:期間5年間)の一事業であり、地域イノベーション創出のための3つのステップ「創造-具現化-事業化」の出口である「事業化」に着目し、「事業化へのあと一歩」を埋めることを目的に開催するセミナーで、事業化に必要な各分野の専門家を講師に迎えて、全10回程度連続して開催することを計画しています。

中村 信一金沢大学長による開会挨拶に続き、吉國 信雄金沢大学イノベーション創成センター長が「ビジネスクリエイト道場」の説明をした後、新潟県の佐渡島で民営による地域興しを行っている株式会社うぶすな代表取締役・合同会社S.M.A.I.L代表の吉井 靖氏から、「ITを活用した地域ブランド創造」と題して、自身の取り組み及びこれからの地域活性について御講演いただきました。

フォーラム後半では、「農商工連携による地域イノベーション」と題して、パネルディスカッションが行われ、地域における農商工連携のあり方及びこれからの石川県の可能性等々について活発な議論を行いました。

普段滅多に聞くことができない実際の生産者及び地域におけるリーダーの生の声を聞く絶好の機会となり、県内各所より200名以上の方に来場して頂くことができました。

最後に長野 勇理事(研究・国際担当)から閉会挨拶があり、フォーラム開催に対する謝辞が述べられました。フォーラム終了後に開催されたパネリスト達との交流会では、地域連携、産業育成のあり方について積極的な交流が図られました。



吉井氏による講演



パネルディスカッション

クラスター・シーズプレゼンセッション

2008.11.20

平成20年11月20日(木)、金沢都ホテルにて、北陸ものづくり創生協議会主催による「クラスター・シーズプレゼンセッション」が開催されました。

この発表会は、地域企業の関心度が高いテーマに絞り、新規なシーズや技術を発表してマッチングの効果を高めることを目的に開催しております。本学から、5分野全てに、以下のとおり参加しました。

ライフサイエンス分野

中村 裕之(金沢大学医薬保健研究域医学系 教授)
「アレルギー発症予防用環境中化学物質除去フィルターの開発」

マイクロナノプロセス分野

浅川直紀(金沢大学理工研究域機械工学系 准教授)
「ロボットを用いた高速高密度自由曲面
厚評価システム -Orthros-」

先端複合材分野

坂本 敏夫(金沢大学理工研究域自然システム学系 准教授)
「陸棲ラン藻の複合機能を活用した保湿性・
自己分解性を示す新素材の開発」

環境・バイオマス分野

○佐々木千鶴(徳島大学大学院助教)
国本 浩喜(金沢大学理工研究域物質化学系 教授)
「未利用セルロース系バイオマスを利用する
ε-ポリリジン発酵プロセスの開発」

健康・福祉分野

生田 宗博(金沢大学医薬保健研究域保健学系 教授)
「介護福祉分野に必要な人間の動作-作業療法技術と
ロボット・サイボーグの接点-」

平成 20 年度アントレプレナーコンテストを開催

2008.12.11

平成 20 年 12 月 11 日 (木)、自然科学系図書館棟 G1 階 G15 会議室にて、アントレプレナーコンテストが開催されました。複数の応募者の中から書類審査により 7 名の参加者が選ばれ、数回の個別指導を経てキャッシュフロー等起業の際の具体的な資金計画や販売戦略を練り、この日の本選に進みました。

プレゼンテーション、審査員・聴講者からの質疑に対する応答を基に審査が行われ、最優秀賞は山口夏樹さんの「障害物回避の操縦支援機能システムの販売」、優秀賞第一位はジョバン・ダビド・レボレド・メンテスさんの「ウイケルセル会社」、優秀賞第二位は政浦卓哉さんの「生物から水へ陸棲シアノバクテリアを用いた重金属吸着素材」が選ばれました。

今回発表されたプロジェクトがより起業化に繋がるよう、最優秀賞から優秀賞第五位までのプロジェクトには、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーから研究助成費が副賞

として贈られました。

また、コンテストの後は審査員・コーディネーター・参加学生による懇談会が行われ、より忌憚なきアドバイスがなされました。

このコンテストでの経験は、参加した学生にとって将来起業する際の糧となるよう期待しております。



発表



表彰

平成 20 年度ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 研究成果報告会を開催

2008.12.18

平成 20 年 12 月 18 日 (木)、「平成 20 年度ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー研究成果報告会」が開催されました。この報告会は、VBL を使用しているプロジェクト及び VBL に所属する博士研究員の、平成 20 年度における研究成果を発表する場となっております。自然科学本館 G2 階アカデミックホールでは、プロジェクト発表 (ポスター発表) が行われ、自然科学系図書館棟 G2 階 G15 会議室にて、博士研究員発表 (口頭発表) が行われました。発表テーマは以下のとおりです。

プロジェクト発表

- 地域医療支援・薬学情報システム開発
ー日本版 EHR と連携アプリケーションー (清水 栄)
- 投資に関する研究・食事療法に関する
情報提供サイトの研究 (寺岡達也)
- 固体基板上への微小球光共振器の形成法に関する研究
多指ハンドにより把持された物体の位置と姿勢の制御
(猪熊孝夫)
- 情報端末用適応信号処理方式及びソフトウェアの研究
開発ー FFT とニューラルネットワークによるブレイン・
コンピュータ・インタフェースの開発ー (中山謙二)
- 新規医薬品の開発業務ならびに予防医学・
診断システムの確立 (太田富久)
- 高次機能性化粧品等の研究・開発 (太田富久)
- はじける植物果実の構造・組織の力学的検討 (坂本二郎)
- 多指ハンドにより把持された物体の
位置と姿勢の制御 (神谷好承)

- 機械システムにおける信頼性モニタリング
システムの応用 (広瀬幸雄)
- YAG レーザによる高度歯科治療に関する研究 (上田隆司)
- 高機能な水質浄化剤及び水質処理システムの開発 (太田富久)
- 食品類の安全性評価法に関する研究 (太田富久)
- 生体反応の可視化による化学発がん
物質検出系の開発研究 (山下克美)
- 納豆菌を利用する重金属元素回収材の開発 (福森義宏)
- 柿ポリフェノールオリゴマーの
効率的製造法及び機能性評価 (太田富久)
- 屋内設備、展示品に対応する
免震装置開発に関する研究 (北浦 勝)

博士研究員発表

- ハトムギの新規機能性に関する研究 (林 浩孝)
- 生体反応の可視化による化学発がん物質
検出系の開発研究 (内田早苗)



ポスター発表



口頭発表

文部科学省産学官連携戦略展開事業 ～農商工連携による新しい『食』ビジネスの事業化支援 ワークショップ～平成20年度ビジネスクリエイト道場開始

2009.1.22

平成21年1月22日(木)、金沢大学イノベーション創成センターセミナー室にて、具体的な事業化を目指すワークショップ「ビジネスクリエイト道場 第1回 オリエンテーション」が開催されました。テーマは、農商工連携による『食』ビジネスです。

このワークショップの特徴は、事業プランを持つ参加者を入門者、先駆的な成功事例を持つ事業者を師範代、専門的な知識を持つ理論家を師範に見立て、1次産業(生産)⇒2次産業(加工)⇒3次産業(流通販売)⇒IT戦略⇒ブランディングと、『食』ビジネスの上流から下流までをも見通しながら、事業化を支援していくことが狙いです。

第1回目は、本ワークショップの趣旨説明、入門者の自己紹介、最終回に呼び寄せるバイヤーの紹介が行われ、その後、イノベーション創成センター 瀬領浩一 特任教授より、本ワークショップの概要及び、今後のビジネスの考え方について、説明が行われました。

会場には、聴講者も含め50名程の予想を上回る参加者が訪れ、ほぼ満席状態。非常に熱気あふれるスタートを切ることができました。



平成21年度研究開発助成事業・ JST シーズ発掘試験公募等合同説明会を開催

2009.2.3
2.5

平成21年2月3日(火)、金沢大学角間キャンパス自然科学大講義棟レクチャーホールにて、「平成21年度研究開発助成事業・JST シーズ発掘試験公募等合同説明会」が開催され、会場には多くの研究者が訪れました。

第一部では、中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局産業課 調査官 柳澤一男 氏と地域経済課 支援係長 山崎博展 氏による、経済産業省研究開発助成事業の説明、(財)石川県産業創出支援機構(ISICO) プロジェクト推進部長 酒井正二 氏による、石川県関連助成事業の説明が行われました。

第二部では、(独)科学技術振興機構 産学連携事業本部 産学連携推進部 産学連携推進課 課長代理 藤井健視 氏による(独)科学技術振興機構関連事業の説明後、シーズ発掘試験公募説明がJST イノベーションプラザ石川 事務局長 坂内千浩 氏により行われ、産学官地域アドバイザー 奥野信男 氏による過去の実例紹介も交え申請書の記載説明が行われました。

シーズ発掘試験公募説明会においては、平成21年2月5日(木)に鶴間キャンパスにおいても開催されました。



第13回 おおた工業フェアへ参加

2009.2.19

-2.21

平成21年2月19日(木)～21日(土)の3日間に渡り、大田区産業プラザ(Pio)にて、「第13回おおた工業フェア」が開催され、金沢大学が参加しました。

セミナーでは、瀬領浩一イノベーション創成センター特任教授が「産学官連携に見るモノづくりとココロづくり」と題した講演を行い、企業関係者等41名が聴講しました。講演では、金沢大学の産学官連携体制、産学連携を進めるための人材育成等に関する意見交換が行われました。

展示は、キャンパスイノベーションセンター(CIC)東京に入居している金沢大学を含めた大学と共同で出展し、本学は産学官連携活動、イノベーション創成センターの紹介を行いました。シーズ集を求める人も多く、来場者の関心の高さが伺えるイベントでした。

「おおた工業フェア」は、大田区の企業の高度な技術・技能を広くアピールし、ビジネスチャンスの拡大を図ることを目的に開催する展示商談会です。



瀬領特任教授によるセミナーの様子

金沢大学イノベーションフォーラム2009を開催

2009.3.7



学長あいさつ

平成21年3月7日(土)に、金沢大学は、「金沢大学イノベーションフォーラム2009」を金沢市内のホテルで開催しました。

同フォーラムは、平成20年度文部科学省産学官連携戦略展開事業(戦略展開プログラム)の一環として実施したもので、産学官連携の活動報告と産学官の代表者による討論会に、関係者

165名が出席しました。

中村 信一金沢大学長の開会あいさつ、文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課 岩田 行剛専門官による「産学官連携の現状と今後の施策について」と題する

基調講演が行われた後、吉国 信雄金沢大学イノベーション創成センター長らによる平成20年度から発足した金沢大学イノベーション創成センターの活動報告がありました。その後、細野 昭雄金沢大学イノベーション創成センター協力会会長の進行により、5名の産学官の代表者をパネリストとして、「創造・具現化・商業化と地域イノベーション」を主要テーマに、「地域イノベーションの柱とは?」、「グリーンニューディールの政策展開とその対応」、「大学への期待」等をサブテーマとしたパネルディスカッションが行われました。

フォーラム終了後に引き続き行われた情報交換会では、産学連携の取り組みの実例紹介を兼ねてクラシック演奏が披露され、交流の場が華やかに盛り上がりました。



岩田文部科学省専門官による講演



パネルディスカッション



情報交換会におけるクラシック演奏

MEX 金沢 2009 (機械工業見本市金沢) へ出展

2009.5.21
-5.23

平成 21 年 5 月 21 日 (木) ~ 23 日 (土) の 3 日間、石川県産業展示館 4 号館において MEX 金沢 2009 (機械工業見本市金沢) が開催されました。

今年で 47 回目を迎えるこのイベントには、およそ 100 社の出展があり、約 37000 人が来場しました。本学からは、以下の 2 ブースで出展いたしました。

○清水 宣明 環日本海域環境研究センター
「高性能水質浄化装置」試作機の展示

○イノベーション創成センター
・イノベーション創成センターの紹介
・出張技術相談所の設置

今回は、不況の影響もあり、規模を縮小しての開催でしたが、本学ブースには 3 日間で約 1000 人ももの来場者があり、特に新規分野開拓を目的とする関心の高さが伺われました。



出張技術相談所の様子



環日本海域環境研究センター 清水 宣明
研究室の紹介

e-messe kanazawa 2009 (e メッセ金沢) へ出展

2009.5.21
-5.23

平成 21 年 5 月 21 日 (木) ~ 23 日 (土) の 3 日間、石川県産業展示館 1 号館において e メッセ金沢 2009 が開催されました。

20 年以上の歴史があり、約 5 万人が集まる北陸最大のデジタル総合展です。50 社を超える企業・団体の出展の中、21 世紀の情報化社会の未来形を地域発信するこのイベントは、来場者の関心を惹き付けており、会場には、沢山の方が訪れておりました。今年度、金沢大学から、以下の通り出展しました。

○理工研究域電子情報学系 教授 中山 謙二 研究室
「簡易脳波計を用いたブレイン・コンピュータ・インタフェイス」

この研究は、脳波を用いて機器の操作を行う仕組みの研究ということもあって、是非自分も試したいという参加者が非常に多く見受けられました。参加者からはとても興味深いと好評を得ました。



来場者へ説明する中山研究室の学生

金沢大学と能都北辰高校の高大連携による 日本海環境調査研究を実施

2009.5.21

-5.29

平成21年5月21日(木)から29日(金)までの9日間、本学と能都北辰高校との高大連携による日本海環境調査研究を実施しました。

この連携調査研究は、金沢大学イノベーション創成センターが戦略展開プログラム事業の一環として、産学官連携を推進する活動がきっかけとなり、金沢大学と能都北辰高校(4月より能登高校)が連携して取り組む初めての活動です。

当該連携調査研究は、能都北辰高校練習船「加能丸」に本学教員及び大学院生が乗船し、能登町宇出津港から長崎港往復の日本海を対象に、海水サンプルの採取・分析等(大学)、漂流ゴミの目視観察等(高校)を行います。航海中に、「日本海をめぐる環境問題」等について大学側か

ら講義を行い、意見交換を通じて高大の交流を深めます。調査研究の成果は、11月1日から始まる教育ウィークで、能都北辰高校・能登高校の在校生や地域の方々に発表する予定です。



平成21年パテントセミナー開講

2009.6.12

平成21年6月12日(金)に、自然科学本館 計算機実習室1で、パテントセミナー「第1回」を開講しました。

発明や起業に興味・関心を持つ学部学生及び大学院学生並びに研究員が6名参加し、イノベーション創成センター 分部 博 准教授による「アイデア発想法」の講義を聴講し、アイデア発想法及びアイデアの練り方について詳しく説明を受けました。

続いて石川県特許情報活用支援アドバイザー 福澤勝義氏による「特許電子図書館(IPDL)を使った特許検索方法と先行例」の講義を聴講しました。

商品サンプルを提示しながら実際にその商品の調査を行うなど、色々と工夫して説明されていたので、全く初めての方でもわかりやすい内容でした。

参加者からは特許情報がインターネットで公開されていることなど全く知らなかったので大変勉強になった、金沢大学が色々な分野で教育に力を入れていることに、改めて感心したとの声が聞かれ好評を得ました。

第2回以降は、参加者の事情に応じ、個別にアイデアの発想から実際のコンテスト応募までの指導を行うこととしています。



分部准教授による講義



福澤氏による特許検索方法説明

平成 21 年度金沢大学イノベーション 創成センター協力会総会を開催

2009.6.23

金沢大学イノベーション創成センター協力会主催により、平成 21 年 6 月 23 日（火）に、KKR ホテル金沢において「平成 21 年度金沢大学イノベーション創成センター協力会総会」が開催されました。

総会では、平成 20 年度事業報告及び収支決算報告・平成 21 年度事業計画案及び収支予算案についての承認が行われ、引き続き役員を選出と、顧問・参与・産学コーディネーターの委嘱についての報告がありました。

引き続き、三鷹光器株式会社 代表取締役社長 中村勝重氏をお招きし、「ナノメーター技術で新産業革命を起こせるか」と題し特別講演が行われ、世界中で認められている手術用顕微鏡を始めとする医療機器製品の特徴

や、非接触三次元測定装置の特徴など、分かりやすく写真を交えてのご講演で、聴講者の興味を引く内容でした。終了後は、懇談会も開催され、産学官の交流の場が設けられました。



総会の様子



中村氏による特別講演

平成 21 年度 JST 育成研究・ A-STEP 公募説明会を開催

2009.6.24

平成 21 年 6 月 24 日（水）、金沢大学 自然科学大講義棟レクチャーホールにて、(独) 科学技術振興機構 JST イノベーションプラザ石川主催、金沢大学イノベーション創成センター共催により、「平成 21 年度 JST 育成研究・研究成果最適展開支援事業 A-STEP 公募説明会」が開催されました。

イノベーション創成センター長 吉國 信雄氏による開会挨拶のあと、(独) 科学技術振興機構 JST イノベーションプラザ石川 坂内 千浩 事務局長による育成研究の公募説明が行われました。本事業は、地域の産学官共同研究により、大学等の研究成果を企業化に向けて育成し、地域におけるイノベーションの創出を目指す事業です。

続いて、(独) 科学技術振興機構 イノベーション推進本部産学連携展開部 三浦 未知氏により、A-STEP の公募説明が行われました。A-STEP（研究成果最適展開支援事業）は、シーズ候補の可能性検証から、ベンチャー起業、実用化開発までを行うもので、平成 20 年度まで行っていた、「産学共同シーズイノベーション化事業」及び「独創的シーズ展開事業」の 2 事業（7 プログラム）を再編し、今年度より、新しく行われている公募事業です。

現在、どちらも公募中ということもあり、会場は申請を検討されている沢山の学内外の出席者で埋まり、質疑応答へも多くの意見が寄せられました。



吉國 センター長の開会の挨拶



坂内氏による育成研究説明



三浦氏による A-STEP 説明

金沢大学知的財産セミナー

「ライフサイエンス分野における知財戦略の現状と将来 ～iPS 知財支援プロジェクトを含めて～」を開催

2009.7.23

平成 21 年 7 月 23 日 (木) に金沢大学医学類 G 棟第四講義室で、日本製薬工業協会から知的財産顧問秋元 浩氏を講師に招いて、金沢大学知的財産セミナー「ライフサイエンス分野における知財戦略の現状と将来～iPS 知財支援プロジェクトを含めて～」を開催しました。企業、県、TLO を始め、金沢大学の研究者、学生、産学官連携部署職員など約 40 名が参加しました。

吉国 信雄金沢大学イノベーション創成センター長による本セミナーの意義を述べた開会あいさつに引き続き、秋元 浩氏による講演「ライフサイエンス分野における知財戦略の現状と将来～iPS 知財支援プロジェクトを含めて～」が行われました。世界に先駆けて日本で創られた iPS 細胞を具体的例として、ライフサイエンス分野における先端技術の特許保護のあり方について、従来から指摘されている問題点を整理しつつ、世界的研究成果の価値の最大化に向けて、知的財産の保護や戦略面より、我々は何をすべきかお話されました。

引き続き、日本製薬工業協会知財支援プロジェクトリーダー補佐長井 省三氏の講演「日本と異なる米国特有の

特許制度」が行われました。日本の研究者は論文発表を重視するので、研究プロトコルや論文で仮出願し、本出願の際にデータも追加できる米国の特許制度は、非常に有効だとお話されました。

講演後は、講師及び参加者間で活発な質疑応答が行われました。

最後に、山本 博金沢大学医薬保健研究域長による開会あいさつがあり、本セミナー開催に対する謝辞が述べられました。



日本製薬工業協会知的財産顧問
秋元 浩氏による講演



日本製薬工業協会
長井 省三氏による講演

金沢大学新技術説明会を開催

2009.7.28

平成 21 年 7 月 28 日 (火) に科学技術振興機構 JST ホール (東京市ヶ谷) で本年も「金沢大学新技術説明会」を開催し、大学発のライセンス可能な特許を発表しました。

本説明会は、本学が特許出願済みで技術移転可能な研究成果 (7 件) を、研究者自らが説明するもので、全て未公開特許です。

各発表の後に、個別に質問・相談が行える時間を設けているのが、特徴の 1 つです。

関心を持つ多くの企業関係者が延べ 474 人来場し、新技術の発表に熱心に耳を傾けました。

新技術発表者は以下のとおりです。

計測技術

「X線による可搬式の金属評価装置」

人間社会研究域 人間科学系 教授 佐々木 敏彦

計測技術

「自由曲面製品の板厚を高速で

高密度に測定する全自動システム」

理工研究域 機械工学系 准教授 浅川 直紀

機械

「レーザー処理による切削加工のバリ発生抑制」

理工研究域 機械工学系 講師 田中 隆太郎

デバイス

「LSI に集積できる低電圧・高利得な

アバランシェフォトダイオード」

理工研究域 電子情報学系 教授 飯山 宏一

デバイス

「鉛を含まない低コストの BiFeO₃ 系の強誘電体材料」

理工研究域 電子情報学系 講師 川江 健

環境

「ハイドロカルサイトをういたヒ素の無毒不溶化」

環日本海域環境研究センター

地球環境計測研究部門 助教 福士 圭介

ライフサイエンス

「タンパク質相互作用に基づく化学発がん性の迅速検定方法」

医薬保健研究域 薬学系

准教授 山下 克美



温暖化防止フェスタかなざわ 2009 へ出展

2009.8.1

平成 21 年 8 月 1 日 (土)、金沢市地球温暖化対策推進協議会と金沢市の主催により、金沢歌劇座において温暖化防止フェスタかなざわ 2009 が開催されました。北陸農政局企画調整室長 中田哲也氏、NPO 法人自転車活用推進研究会理事 足田智氏による「環境講演会」、映画「KIZUKI」の上映、さらに環境保全に取り組んでいる様々な団体、企業による展示や体験学習などが行われ、まだ梅雨空けぬなかでしたが、1300 人余の多数の来場により盛会でした。

本学からは、イノベーション創成センター、「金沢大学高橋光信研究室 / 小松精練株式会社」、「金沢大学瀧本研究室 / サカタのタネ」の展示を行い、多数の来場がありました。



イノベーション創成センター刊行物の紹介

平成 20 年 10 月以降、イノベーション創成センターからの刊行物は以下のとおりです。
入手ご希望の方は、事務室までご連絡ください。無料でお送りいたします。

- 1 金沢大学イノベーションレポート Vol.1 (平成 20 年 10 月刊行)
- 2 金沢大学【研究分野別】シーズ集 (平成 21 年 3 月刊行)
- 3 Seeds Table Each Research Field KANAZAWA UNIVERSITY (平成 21 年 3 月刊行)
- 4 金沢大学産学官連携マガジン 襷 - TASUKI - (平成 21 年 3 月刊行)
- 5 金沢大学イノベーション創成センター NEWS LETTER 第 2 号 (平成 21 年 3 月刊行)
- 6 金沢大学イノベーションレポート 〈特集号 VBL 年報 2008〉 (平成 21 年 3 月刊行)

1 金沢大学イノベーションレポート Vol.1

年 1 回
発行


- 巻頭のことば
「干菓子も菓子なれば、水菓子も菓子」
金沢大学イノベーション創成センター長 吉國 信雄
- 文部科学省産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）の紹介
- 産学官連携の声
「2 年目の挑戦」 産学官地域アドバイザー 酒井 正二
- 産学官連携推進本部及びイノベーション創成センターについて
- イノベーション創成センター特任教授・助教紹介
- 客員教員紹介
- 産学官地域アドバイザー紹介
- 共同研究
平成 19 年度共同研究一覧
平成 20 年度シーズ発掘試験 (A・B) 採択一覧
- 活動状況の紹介 (22 件)
- 新聞報道記事紹介
- 制度・支援の紹介



2 金沢大学【研究分野別】シーズ集

年 1 回
発行

- 金沢大学 HP にある「教員総覧」に対応し作成され、1 冊に集約しております。



3 Seeds Table Each Research Field KANAZAWA UNIVERSITY

年 1 回
発行

- 英語版シーズ集 平成 20 年度より作成しております。




その他

金沢大学イノベーション創成センター協会入会案内パンフレット
ご希望の皆様はイノベーション創成センター事務室までご連絡ください。
金沢大学イノベーション創成センター TEL 076-264-6111 E-Mail innov@adm.kanazawa-u.ac.jp

4 金沢大学産学官連携マガジン 襷 - TASUKI -

年 1 回
発行


- 金沢大学イノベーション創成センターが平成 20 年度から 5 カ年事業として取り組んでいる文部科学省「産学官連携戦略展開事業（戦略プログラム）」の一環及び、報告書として作成されたものです。



5 金沢大学イノベーション創成センター NEWS LETTER 第 2 号

年数回
発行

- 巻頭言
「連携産業創出と産業基盤技術の確保」
金沢大学イノベーション創成センター長・教授 吉國 信雄
- 平成 20 年度共同研究
実施状況について
(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 1 月 7 日現在)
- ～農工商連携による新しい「食」ビジネスの事業化支援ワークショップ～
平成 20 年度ビジネスクリエイト道場
- 新任スタッフ紹介



6 金沢大学イノベーションレポート 〈特集号 VBL 年報 2008〉

年 1 回
発行

- 巻頭のことば
金沢大学イノベーション創成センター起業支援部門長 瀧本 昭
- 平成 20 年度 VBL 使用プロジェクト一覧
- 平成 20 年度研究成果報告
- 平成 20 年度イノベーション創成センター (ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー) 博士研究員一覧・研究成果報告
- 特任教授紹介
- 平成 20 年度 VBL 事業一覧
- 平成 20 年度 VBL 事業報告
- ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー・インキュベーション施設細則
- 委員会等
- 新聞報道記事紹介




科学技術相談について

科学技術相談は、技術面での情報収集や共同研究に向けての最初のとっかかりとして、とても有効なものです。本センターでは、随時無料で、相談を受け付けておりますので、お気軽にイノベーション創成センター事務室までお電話またはE-Mail (innov@adm.kanazawa-u.ac.jp) にてご連絡ください。

技術アドバイスサービスについて

金沢大学イノベーション創成センター協会
技術アドバイスサービス



技術アドバイスサービスは、無料の技術相談と共同研究の間をうめ、よりきめの細かいサービスを行うために、金沢大学イノベーション創成センター協会のご協力をいただき実施しているものです。

これまで、金沢大学では、学内の先生方の協力をいただき、無料の技術相談を行ってきました。具体的にはイノベーション創成センターの教員、コーディネータ更には学内の専門の先生方が、大学の相談窓口となって、企業様の抱えていらっしゃる問題をお伺いし、専門の範囲内でのご相談に乗ってきました。

その結果、解決の方向が見え、その実施にあたり、専門の先生のノウハウが必要とされる場合には、共同研究として、更につっこんだ支援をさせていただきます。

共同研究は大学の研究者が興味を有するテーマが選ばれるのが普通であり、有料であるとともに、必然として研究的性格が優先されてきました。共同研究に対してのこのような取り組み方が、「大学は敷居が高い」といわれる所以でもありました。

技術アドバイスサービスは、研究テーマとならないけれども、専門知識を必要とする実用的な事柄についても、相談に乗って欲しいという企業様からのご要望に応えようと、金沢大学イノベーション創成センター協会のご支援の下サービスを開始したものです。

技術アドバイスサービスのメリットは、企業様にとって、

- ① 共同研究に比べ手軽に利用できる
- ② 費用も格段に安く上がる
- ③ 短期間にそれなりの回答(アドバイス)が得られる

又、大学の研究者にとっては、

- ① 実用性の高い研究ができる
- ② 作業も限定されており、気軽に自分の専門を生かせる
- ③ 机上作業位の費用は出る
- ④ 企業様の最近の動向が分かる

と双方にとって、メリットがあるものです。是非有効に活用していただければと思っております。


技術アドバイスサービスの流れ

1技術アドバイスサービスは、原則として「1～2時間の面接を2回」予定しており、費用は3万円となっております。


1回目
技術アドバイスサービスの1回目は技術相談と似ております。研究者とコーディネータが企業の抱えている案件について詳細に伺います。その際、その案件の問題点・解決策・将来性を明らかにすることを目的とし、確認を行います。(納期の確認を含む)

↓

研究者はそこで、確認した事項に関し、過去の経験を生かして、原因を列挙し、問題点の整理を行います。



2回目
二回目の打合せでは、研究者が整理した、問題点もしくは解決策(アドバイス)について、企業様にご説明いたします。



金沢大学イノベーション創成センター協会加入の企業様には、年会費分は、サービス費用へ振り替え可能な特典があります

金沢大学イノベーション創成センターホームページ (<http://www.innov.kanazawa-u.ac.jp/>) では、「科学技術相談」および「技術アドバイスサービス」の申込をメールでも随時受け付けております。こちらからは、申込書のダウンロードも可能です。

また、金沢大学イノベーション創成センター協会ホームページ (<http://www.innov.kanazawa-u.ac.jp/ccr/kyouryokukai/>) では、随時入会のご案内も行っております。是非ご覧ください。

技術アドバイスサービス申込書

金沢大学イノベーション創成センター協力会 殿

下記のとおり技術アドバイスを申し込みます。

申 込 者	企業等名				
	所属・職名			ふりがな	
				氏名	
	連絡先	住所	〒		
TEL		()	-		
FAX		()	-		
	E-mail				
アドバイス分野(○で囲んでください) エレクトロニクス 環境・エネルギー 機械 材料(ナノ) ソフトウェア 土木建築 バイオ その他() 担当希望教職員名(できれば記入してください)					
アドバイス概要(具体的に記入してください)					
問題の背景・狙い:					
対象範囲:					
納期・期限:					
その他:					
協力会記入欄(※記入しないでください)					
提出先	金沢大学 イノベーション創成センター協力会 〒920-1192 石川県金沢市角間町 TEL 076-264-6111 FAX 076-234-4019 E-mail innov@adm.kanazawa-u.ac.jp		※記入しないでください		
	受付日	協力会担当	アドバイス担当教職員		

共同研究について

企業等の研究者と本学の教員とが共通の研究課題について、対等の立場で共同して研究を行う制度です。共同研究を行う上で、テーマ・担当教員・進め方等が具体的にお決まりでない場合は、イノベーション創成センターに一度ご相談ください。専任教員とコーディネータが、研究者とのコーディネートを行います。

1. 共同研究の種類

企業等から研究者と研究経費を受け入れて、基本的に本学において研究を行うタイプの『派遣型』、本学の教員と企業等の研究者が、共通の研究課題について研究を分担し、それぞれの施設において研究を進めるタイプの『分担型』があります。

2. 共同研究に必要な経費

民間機関等に負担していただく経費は、次のようになっています。

研究料	企業等の研究者の受入れに必要な経費。 1年度1人につき420,000円。(ただし、研究期間が6ヶ月以内の場合は210,000円。)
直接経費	共同研究に必要な謝金、旅費、消耗品・設備購入費などの直接経費。
間接経費	直接経費の5%

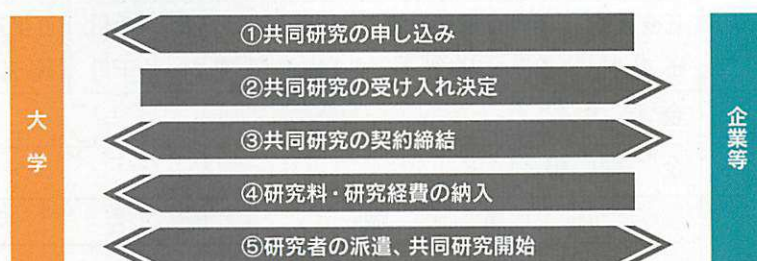
3. 共同研究に使用する施設、設備等

本学及び企業等で、使用する施設、設備の維持・管理に必要な経費（経常経費）は、それぞれが負担します。

4. 本学への申込時期

随時可能です。

5. 共同研究の実施手順



共同研究の「申込書」は、以下のURLどちらからでも、ダウンロードが可能です。

共同研究に関するご相談について

金沢大学イノベーション創成センター
〒920-1192 石川県金沢市角間町
TEL : 076-264-6111
FAX : 076-234-4019
E-mail : innov@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL : <http://www.innov.kanazawa-u.ac.jp/>

共同研究の手続き・申込みに関するお問い合わせ

金沢大学研究国際部産学連携課
〒920-1192 石川県金沢市角間町
TEL : 076-264-5904
FAX : 076-234-4012
E-Mail : sangaku@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL : <http://www.ad.kanazawa-u.ac.jp/sangaku/index.html>

共 同 研 究 申 込 書

年 月 日

国立大学法人金沢大学長 殿

申込者

〒

住 所

企 業 等 名

代表者職・氏名

④

金沢大学共同研究取扱規程を遵守の上、下記のとおり共同研究を申し込みます。

記

1 研究の形態	ア	金沢大学における共同研究		
	イ	金沢大学及び企業等における共同研究		
2 研究題目				
3 研究目的及び内容				
4 研究期間	平成 年 月 日から平成 年 月 日まで			
5 研究に要する経費の負担額(総額分) (消費税及び地方消費税を含む)	直接経費	円		
	間接経費	円		
	研究料	円		
	合計	円		
6 2事業年度以上にわたる研究の場合は次年度以降の直接経費及び研究料の全体計画	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度
	直接経費 千円 研究料 千円	直接経費 千円 研究料 千円	直接経費 千円 研究料 千円	直接経費 千円 研究料 千円
7 研究実施場所	金沢大学			
	企業等			
8 企業等共同研究員	所 属 ・ 職		氏 名	派遣の有無
				有 無
9 希望する研究担当教員	所 属		職	氏 名
10 提供設備等				
11 その他	担当者, 連絡先等			
	電話	()	—	
	FAX	()	—	
	e-mail	[]

申込書記入要領

1 研究の形態

企業等から研究者と研究経費を受け入れて、基本的に本学において研究を行う場合（派遣型）は、「ア」を○で囲んでください。

本学の教員と企業等の研究者がそれぞれの施設において研究を行う場合（分担型）は、「イ」を○で囲んでください。

4 研究期間

希望する研究期間を記入してください。

5 研究に要する経費の負担額（総額分）（消費税及び地方消費税を含む）

直接経費は、共同研究遂行のために、特に必要となる謝金、旅費、消耗品費、設備購入費等の直接的な経費の合計額を記入してください。

間接経費は、直接経費の5%を計上願います。

研究料は、企業等が本学に研究者を派遣する場合に必要な共同研究員研究料を記入してください。

※間接経費の計算例

直接経費が1,000,000円の場合の間接経費の額は、50,000円となります。

$1,000,000 \text{円} \times 0.05 = 50,000 \text{円}$

研究経費（直接経費 + 間接経費）が1,000,000円の場合の間接経費の額は、47,600円となります。

$1,000,000 \text{円} \times 5/105 \approx 47,600 \text{円}$ （百円未満切捨て）

6 2事業年度以上にわたる研究の場合は次年度以降の直接経費及び研究料の全体計画

この欄は、研究期間が複数年度で、上記の「5 研究に要する経費の負担額（総額分）」を年度毎に分割してお支払いになる場合に記入してください。（一括してお支払いになる場合は、記入の必要はありません。）

8 企業等共同研究員

「所属・職」欄は、所属部署及び役職名を記入してください。

「派遣の有無」欄は、研究の形態が「ア金沢大学における共同研究」の場合は「有」を、「イ金沢大学及び企業等における共同研究」の場合は「無」を○で囲んでください。

10 提供設備等

企業等から、本学への貸与設備がある場合に、設備の名称、規格及び数量を記入してください。

記入例：原子吸光光度計（株）〇〇社製 A100 1式

金沢大学イノベーション創成センター 協力会入会のご案内

石川県の産業が持続的に発展していくためには、地域独自の資源を活用しながら、新しい付加価値を創造し、国内外の競争に勝つための産業基盤の確立が急務となっています。

金沢大学共同研究センターは、平成7年に設置され、大学の研究成果を地元産業に還元する産学連携の中心的な役割を果たしてきました。

技術の高度化、新たな商品開発など地元産業界が直面している多くの課題に対処していくためには、金沢大学共同研究センターのリエゾン機能を最大限活用することが大変有効であります。

そこで金沢大学と地域の産業界が地に足のついた産学連携と相互の日常的な交流をいっそう進めていくことをめざした『金沢大学共同研究センター協力会』を設立いたしました。

現在、平成20年4月1日の金沢大学イノベーション創成センターの発足に伴い、その名を『金沢大学イノベーション創成センター協力会』として新たなスタートを切りました。

つきましては、以上の主旨をご理解いただき、本会への入会につきまして、よろしくお願いいたします。

事業内容

1. 産学連携コーディネーターの支援強化
2. 技術アドバイスサービス
3. セミナー・講演会の実施
4. 各種説明会の開催
5. 各種イベントへの参加
6. 企業等への見学、実情視察
7. 刊行物の発行
8. その他

会員

会員は本会の事業に賛同する法人又は団体等の方々です。

会費

会費は、年会費一口3万円です。

設立

平成13年7月

産学コーディネーター

次頁に学内外のコーディネーターを紹介しています。

入会申込方法

金沢大学イノベーション創成センター協力会の主旨に賛同され、入会をご希望される方は、下記事務局までご連絡ください。また、インターネットによるお申し込みも受け付けております。お申し込みが確認でき次第、事務局より内容確認と会費の振り込み方法を郵送または電子メールでご連絡いたします。

金沢大学
イノベーション創成センター
協力会事務局

〒920-1192 石川県金沢市角間町
金沢大学イノベーション創成センター内
Tel 076-264-6111 Fax 076-234-4019
E-Mail innov@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL <http://www.innov.kanazawa-u.ac.jp/ccr/kyouryokukai/>

金沢大学産学官連携関係者一覧

産学官連携推進本部 産学官連携推進本部

長野 勇	本部長 金沢大学理事・副学長 (研究国際担当)
吉國 信雄	副本部長 インノベーション創成センター長
片桐 和雄	人間社会研究域長
中尾慎太郎	理工研究域長
山本 博	医薬保健研究域長
瀧本 昭	インノベーション創成センター副センター長
大友 信秀	インノベーション創成センター将来開拓部門長
渡辺 良成	インノベーション創成センター連携研究推進部門長
分部 博	インノベーション創成センター知的財産部門長
千葉 正	研究国際部長
今出 清勝	産学連携課長
平野 武嗣	(有) 金沢大学ティ・エル・オー代表取締役社長

産学官地域アドバイザー

粟 正治	
粟井 憲之	小松市 経済環境部商工振興課 課長
市川 伸彦	(株) 日本政策投資銀行北陸支店 次長
大江 聡	(株) 北國銀行 支店支援部支店支援課 課長代理
奥野 信男	丸文通商(株) 営業支援グループ 担当部長
川島ひろ子	石川県保健環境センター 技監
小石 芳一	(株) 北陸銀行 支店部 石川地区駐在 副部長
小木 茂	金沢市 産業局 ものづくり政策課 主査
高尾 浩久	野村證券(株) 金沢支店 次長
舟津 泰雄	金沢信用金庫 営業統括部 法人営業室長
水口由紀夫	富木医療器(株) 科学機器営業部 部長
山森 力	(財) 石川県産業創出支援機構 プロジェクト推進部長

インノベーション創成センター

吉國 信雄	センター長 インノベーション創成センター教授
瀧本 昭	副センター長 起業支援部門長 (理工研究域機械工学系教授)
大友 信秀	将来開拓部門長 (人間社会研究域法学系教授)
渡辺 良成	連携研究推進部門長 インノベーション創成センター教授
分部 博	知的財産部門長 インノベーション創成センター准教授
平子 紘平	インノベーション創成センター特任助教
阿部 覚	インノベーション創成センター博士研究員
畔原 宏明	インノベーション創成センター博士研究員
矢野 弘	協力会事務局長
加藤真由美	
川江 一枝	
塚林 美沙	
徳井 佳子	

(客員教授)

飯島 泰裕	青山学院大学 社会情報学部 大学院社会情報学研究科 教授
奥野 信男	丸文通商(株) 営業支援グループ 担当部長
志岐 弘之	(有) 日本ビジネスサポート協議会 代表取締役
斯波久二雄	(株) BM 総研 吹田事務所長
瀬領 浩一	
多喜 義彦	システムインテグレーション(株) 代表取締役社長
中井 純	(株) アットワイヤレス 代表取締役社長
平野 武嗣	(有) 金沢大学ティ・エル・オー 代表取締役社長

(研究員)

佛田 利弘	(株) ぶった農産 代表取締役社長
-------	-------------------

研究国際部

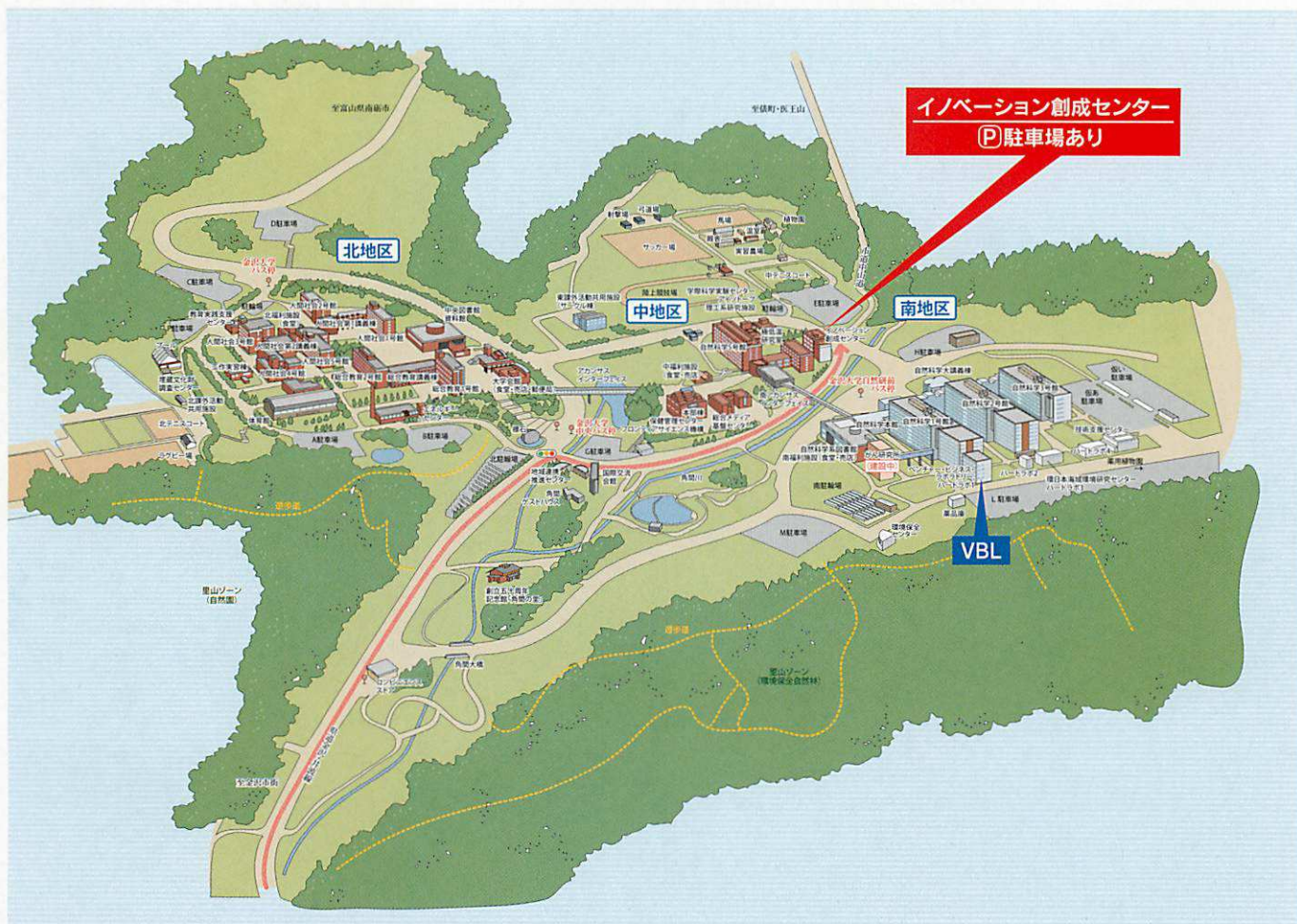
千葉 正	研究国際部長
今出 清勝	産学連携課長
廣瀬 敏之	産学連携課副課長
町元 充	産学連携課知的財産係長
西尾都代子	産学連携課産学連携係 主任
大板 聡子	産学連携課産学連携係
中出 有美	産学連携課産学連携係
吉田 純子	産学連携課産学連携係
近藤 真史	産学連携課知的財産係
平子ゆかり	産学連携課知的財産係
藤井 彰子	産学連携課知的財産係

(有) 金沢大学ティ・エル・オー (KUTLO)

平野 武嗣	代表取締役社長
村上 清史	取締役 (金沢大学名誉教授)
濱本 寛	取締役
畑中 建治	監査役 (金沢大学監事)
中村 尚人	シニア・ライセンシングアソシエイト
高田 律子	ライセンシングアソシエイト
吉田 真弓	ライセンシングアソシエイト
坂口菜朋子	ライセンシングアソシエイト (NEDO フェロー)
表 真佐美	総務・経理担当
五十嵐泰蔵	(社) 発明協会・特許流通アドバイザー
奈良 俊彦	シニア・アドバイザー

産学官連携コーディネーター

小川健一郎	文部科学省産学官連携コーディネーター
長江 英夫	金沢大学産学官連携コーディネーター



金沢大学イノベーション創成センター
〒920-1192 石川県金沢市角間町
Tel.076-264-6111(代表) Fax.076-234-4019
E-mail innov@adm.kanazawa-u.ac.jp
<http://www.innov.kanazawa-u.ac.jp/>

金沢大学イノベーション創成センター 小松サテライト
〒923-8650 石川県小松市小馬出町91番地
小松市役所 2F 経済環境部商工振興課内
Tel.0761-24-8074 Fax.0761-23-6404